

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	池永 正人		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<p>テーマ：観光地域の野外巡検</p> <p>本学から日帰り可能な観光地域の野外巡検であり、現地において観察・聞き取り・資料収集などを行い、研究成果レポートの作成を通じて、地域研究の基本的手法を修得する。</p>							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	地域調査の方法やレポートの書き方およびプレゼンテーションの技法を身につけることができる。				研究発表	20%	
情報収集、分析力	観光地域の特性や問題点を見出す観察力・思考力を養うことができる。				野外巡検	20%	
コミュニケーション力	地域調査の準備や調査結果の整理において、グループで意見を述べるることができる。				事前・事後学習	30%	
協働・課題解決力	地域の自然や歴史・文化の観光活用に関心を抱き、調査・研究に取り組むことができる。				事前・事後学習	10%	
多様性理解力	観光地域の事象に関する自然科学や人文・社会科学の幅広い知識を修得できる。				研究成果レポート	20%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習は野外巡検である。</li> <li>・評価は、野外巡検、研究発表、研究成果レポート、事前・事後学習を総合して行う。</li> </ul>							
授業の概要							
<p>演習の方法は、以下の手順で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 野外巡検の目的・意義・場所・日程・方法などを検討</li> <li>2. 研究テーマ・内容の設定</li> <li>3. 研究内容に関する文献・資料の収集と分析</li> <li>4. 現地調査（後期（秋期）：11月に実施。観察や役所・観光施設等での聞き取り。）</li> <li>5. 研究成果レポートの作成</li> <li>6. 研究発表会</li> </ol> <p>注）専門演習 I Aとは異なる場所を巡検する。また、旅費は各自で実費を負担する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
教科書・参考書・指定図書：研究地域が決定した後、巡検地に関連する文献を提示する。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>この演習は、地域研究の基本的手法を習得するものであり、観光地の地域調査に関心のある学生の受講を希望する。野外巡検を通じて、観光地域の特性や問題点を見出す観察力を養ってほしい。そのためには、研究対象地域に関する文献・資料を図書館やインターネット等で収集し、積極的に予備知識を身につけることを希望する。</p> <p>※本演習を選択する学生は、次のコースを履修することが望ましい。 観光マネジメント</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	演習の内容	過年度の実績と新年度の演習計画を理解する。	予習：シラバスを読む 復習：野外巡検地の考案
2	後期（秋期）野外巡検地の選定 省察・個人目標の設定	野外巡検（人文観光地）の目的・場所・日程等について検討する。 前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定の面談を実施する。	予習：巡検地の文献調べ 復習：文献を読む
3	巡検地の事前学習①	研究内容に関する文献・資料を輪読する。	予習：巡検地の文献調べ 復習：文献を読む
4	巡検地の事前学習②	文献・資料を輪読する。	予習：文献を読む 復習：文献の要点整理
5	巡検地の事前学習③	地形図を用いて土地利用図を作成し、現象を分析する。	予習：土地利用図作成 復習：土地利用の分析
6	巡検地の事前学習④	観光施設等の観察調査の調査票を作成する。	予習：調査項目の考案 復習：調査票の作成
7	野外巡検の準備	野外巡検の日程・調査票・持参品等の確認をする。	予習：調査内容の確認 復習：持参品等の準備
8	野外巡検（人文観光地）	紅葉の美しい11月に、人文観光地（都市・農村地域）を1日調査する。	予習：調査内容の確認 復習：調査結果の整理
9	レポート作成要領	研究成果レポートの作成要領を理解する。	予習：調査結果の整理 復習：調査結果の整理
10	収集文献・資料の分析	現地で収集した文献・資料を輪読し、内容を分析する。	予習：レポート執筆 復習：レポート執筆
11	レポート提出	研究成果レポートを提出する。	予習：レポート執筆 復習：口頭発表の準備
12	研究発表	作成したレポートをもとに、ゼミ内で個別に口頭発表する。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
13	レポートの添削指導	添削されたレポートについて、個別指導を受ける。	予習：レポート内容確認 復習：レポートの修正
14	レポートの修正	添削されたレポートを修正する。	予習：レポートの修正 復習：レポートの修正
15	後期（秋期）レポートの受理	修正した研究成果レポートを提出する。 1年間の学修を省察する。	予習：レポート提出準備 復習：文献・資料の整理

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	板垣 朝之		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>専門演習 IA で実践したマクロ視野での観光の学びを、更に領域を広げて検証する。観光が日本の国策として取り上げられ経済や文化の多様な領域の中で語られ注目されている現状を、専門演習 IA で身に付けた手法により検証し、グループディスカッション等を通じてより深い理解を得る事、得た知識を自分のものとし、自分の意見を発表し文章で表すようになることを目的とする。</p>							⑤⑦⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	新聞、マスコミ、WEB、SNS 等の情報源を駆使して、自分の意見を裏付ける情報を収集し、自分の考えに沿って情報を取捨選択し、まとめる事が出来る。				・レポート ・討議参画	30%	
コミュニケーション力	自分の考えを述べ、他の学生の意見を聞いた上で、両者を調整し、グループディスカッション等、議論の上で最適解を発見できる様になる。				・討論参画 ・意見の陳述	50%	
協働・課題解決力							
多様性理解力	自分の所属しない社会の現象を知り、その現象の負って立つ背景を理解できる様になる。				・レポート ・討議参画	20%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>自分の意見を、口頭と文章の両方で表現できるか否かを重視する。答えが与えられるのを待つのではなく、自分はどう考えるという事をどれだけ表現できるかが重要である。15 週の中で各学生がどの様に考え、どの様にそれを表現したかを評価軸におくので、筆記試験は行わない。レポート等のフィードバックは返却時等に適宜行う。</p>							
授業の概要							
<p>観光を構成する要素を再検証し、観光立国日本の観光の今後のあり方を再確認する。学生が自分なりの解答を見つけて出す事を目標とした授業となる。学外調査や外部講師の予定等により授業振り替えが発生する可能性がある。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書/参考書：特に指定しない。必要なレジュメ等は授業時に配布する。  指定図書：『この国のかたち1～6巻』：司馬遼太郎 文芸春秋社</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>この演習のキーワードは「好奇心」+「探求心」である。常に社会の神羅万象に好奇心を持って臨む事、情報収集に努める事、情報を取捨選択した上で自ら判断し、自分の意見を持つ事が重要である。この授業での自分磨きが、将来自分自身の「教養」となって身につけて行く事を体験してほしい。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	全体の導入	IAの結果を踏まえ、IBでの方向性や各自の問題意識の持ち方等を確認する。	専門演習 IA での目標達成度を自己評価しておく。
2	個人面談・省察	専門演習 IA での成果を個人面談により省察し、到達目標の進捗状況確認や新たな目標設定を行う。	後期に向け新たな目標案を検討しておく。
3	日本の観光業界と今後の方向性 (1)	「観光立国」の具体的な意味と基本的な考え方を学ぶ。	資料を読み、日本の観光業界全体の状況を把握する。
4	日本の観光業界と今後の方向性 (2)	「観光立国」日本の置かれた現状を考える。(第1回)	オリパラ以降の日本の観光の方向性を考える。
5	日本の観光業界と今後の方向性 (3)	「観光立国」日本の今後の展開を考える。(第2回)	インバウンド旅行者 4 千万人時代を考える。
6	日本の観光業界と今後の方向性 (4)	「観光立国」日本の今後の展開を考える。	インバウンド旅行者 4 千万人時代を考える。
7	世界遺産の観光活用について考える (1)	世界遺産とは何か、これを観光誘致にどのように活用できるのかに関して学ぶ。	「世界遺産」の本来の意味を考える。
8	世界遺産の観光活用について考える (2)	地元の世界遺産にはどのようなものがあるのかに関して学ぶ。	長崎・熊本の教会遺産等について再確認する。
9	世界遺産の観光活用について考える (3)	世界遺産の観光活用に関して、活用方法の仮説を立て、グループ討議等により臨検のスケジュールを検討する。	世界遺産をどのように観光活用するのか、必要な仮説を立てる。
10	世界遺産の観光活用について考える (4)	地元の世界遺産を訪問し、観光活用の方法に関して検証を行う。	臨検の準備と検証結果のまとめと発表準備をする。
11	世界遺産の観光活用について考える (5)	検証結果をグループごとに発表する。	世界遺産の旅行可 t 省に関するプレゼンテーションを実施する。
12	日本文化の魅力を考える (1)	「日本食」や「サブカルチャー」のあり方を考える。	日本食やサブカルチャーの現状を確認する。
13	日本文化の魅力を考える (2)	日本食文化の特徴について討議し理解を深める。	(1) (2) で共有した現状に関し、自分の意見をまとめておく。
14	専門演習 I 全体の振り返り	1 年生の演習で学んだことを省察し、次の学年での学びや自分の将来にどの様につながるのかを考える。	専門演習 I 全体で学んだことを再確認する。
15	まとめ	各自が半期の研究を振り返り、まとめの発表を行う。	半期のまとめ発表の準備をする。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	井上 英也 (実務家教員)		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の 類 型
<p>本学の建学の理念にあるホスピタリティは、人と人を結びつける重要な素養として、国際化、多様化が進む企業活動においても広く取り入れられています。本演習は、ホスピタリティ産業の先端であるホテルの研究を通じて、“感じる力”“考える力”“表現・行動する力”を養い、将来の観光産業のリーダーを育成することをねらいとします。授業は、個人・グループによる研究、討議、発表により学びを深めます。</p>							②④ ⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	地域観光の核となる宿泊業の役割を理解し、個々のホテル、旅館について、ビジネス、顧客、社員の観点から評価ができる。				課題レポート	10%	
情報収集、分析力	常に新聞や雑誌に掲載される最新のホテル関連記事や情報を収集し、世界および我が国のホテル業の潮流について自分なりの見識を持つことができる。				授業への積極姿勢	30%	
コミュニケーション力	課題に積極的に取り組み、自分の考えを説明することができる。また、パワーポイントを使って説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。				授業への積極姿勢 プレゼンテーション	40%	
協働・課題解決力	ホテル視察、研究において、自分の役割を設定し、グループに貢献することができる。また、新たなチャレンジに果敢に挑戦することができる。				授業への積極姿勢 現場視察への積極姿勢	10%	
多様性理解力	外国人旅行客が地域のホテル・旅館・観光全般に求めることを理解し、改善策を提言することができる。				プレゼンテーション	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>① 「授業への積極姿勢」は、授業中の態度、発言・質問の頻度とレベルをもとに評価する。          ② 「課題レポート」は提出時期 (30%) 内容の論理性・独自性 (50%) 文章構成力・形式要件 (20%) で評価する。          ③ 「プレゼンテーション」は、内容とともに、情報ツールの活用能力、発表態度などをもとに評価する。          ④ 「現場視察への積極姿勢」は、事前準備、視察中の態度、事後のとりまとめなどをもとに評価する</p>							
授業の概要							
<p>ホテルを支える従業員の仕事の内容を理解することを通じ、働くこと、キャリアを積むことの意義を考える機会とします。また数人のゲストスピーカーを招き、グローバルなキャリアについて学びます。個人・グループの研究成果はプレゼンテーションを通じて、成果を共有していきます。また、授業の理解度をポートフォリオのレスポンスやイマキクを利用して確認するこの授業の標準的な授業外学修時間は、1コマ45分とする。</p>							
教科書・参考書							
教科書：特になし / 参考書：授業時に、指定する。 指定図書：「ゴールド・スタンダード」ジョゼフ・ミケーリ							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>①ホテル・旅館など宿泊産業の情報に興味を持ち、書籍及び新聞、テレビ、雑誌などメディアから積極的に入手する。          ②ゼミのチームメンバーとは、協力して授業外の研究活動を行う。          ③「宿泊業論」・「ホテルオペレーション」・「プライダルマネジメント」など関連の科目を履修し、理解を深める。          ④近隣地域の観光イベントに興味を持ち、積極的に参加する。          ⑤国際的な情勢に関心を持ち、学内・学外を問わず、積極的に異文化交流を行う。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション ホテルの組織	専門演習 I A を総括し、今後の演習の進め方をシラバスに基づいて詳しく説明する。 ホテルの組織と各部門の役割について理解する。	(予習) シラバスを読んでおく
2	省察、個人目標の設定	前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	(予習) 後期の個人目標を考えておく
3	宿泊部門の仕事 I	現役の宿泊部長を招き、宿泊部門の仕事内容についての説明を受けた後、質疑応答により理解を深める	(復習) 宿泊部門の職務記述書を読む
4	宿泊部門の仕事 II	宿泊部門の職務を理解した後、業務上起こるケーススタディを通じ、具体的に仕事を理解する。	(予習) 予め指示された宿泊部門の職務内容を理解する
5	料飲部門の仕事 I	料飲部門の主だった職務を職務記述書から読み解くことにより理解する。	(予習) レストランの仕事を調べておく
6	料飲部門の仕事 II	レストランで業務上起こるケーススタディを通じ、具体的に仕事を理解する。	(予習) 予め指示された料飲部門の職務内容を理解する
7	ウェディング部門の仕事 I	ウェディング部門の職務を理解した後、業務上起こるケーススタディを通じ、具体的に仕事を理解する。	(予習) ウェディングプランナーの仕事を調べておく
8	ホテル試泊 福岡市内のホテルを試泊	福岡市内のホテルに宿泊し、ホテル館内の視察を通じて、ホテルのインスペクションを行う。 (ANA クラウンプラザ福岡 予定)	(予習) ANA クラウンプラザ福岡についてウェブサイト調べておく
9	ホテル試泊に関する プレゼンテーション	試泊によりインスペクションした結果について、グループごとに討議し、発表する。	(予習) 試泊した内容をまとめておく
10	セールス&マーケティング 部門の仕事	セールス&マーケティング部門の職務を理解した後、業務上起こるケーススタディを通じ、具体的に仕事を理解する。	(予習) マーケティングの仕事を調べておく
11	管理部門（経理・人事）の 仕事	管理部門の職務を理解した後、業務上起こるケーススタディを通じ、具体的に仕事を理解する。	(予習) 人事の仕事を調べておく
12	総支配人の仕事	現役の総支配人を招き、ホテルのリーダーとしての役割について説明を受けた後、質疑応答により理解を深める。	(予習) 総支配人の役割を考えておく
13	キャリア・マップの理解と キャリア・パスの作成	ホテルのキャリアマップを理解し、総支配人になることを想定したキャリア・パスを作成する。	(予習) キャリア・マップについて調べておく
14	国際人としてのキャリア	国際的に通用するキャリアを、ホテルの仕事を参考に考察する。	(予習) 海外のホテルを一つ選択し、施設内容を調べておく
15	専門演習 I B のまとめ	学んだことをグループごとにとりまとめ、発表する。	(予習) グループ発表の準備をする

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	落合 知子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の 類 型
<p style="text-align: center;"><b>テーマ：博物館・地域文化資源の巡検</b></p> <p>博物館などの見学を各自が行い、博物館を資料・展示・保存・研究・展覧会など様々な角度から概観し、博物館を幅広く学ぶとともに、卒業研究のテーマを考える力を身に付けることができる。 地域文化資源の野外調査を行い、その結果を発表することができる。</p>							⑥⑫
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・ 方法	評価 比率	
専門力	博物館に関心を持つことができ、調査・研究の取り組み方法を身に付けることができる。				授業・調査への参 加度	10%	
情報収集、 分析力	博物館の特性や問題点を見出す力や思考力を養うことができる。 書籍や論文を読み分析力を養うことができる。				事前・事後学習	30%	
コミュニケーション 力	ゼミ形態の授業を基本とし、学外のフィールドワークで協調性を養うことができる。				調査における態 度	50%	
協働・課題解決 力	博物館の調査方法を身に付け、プレゼンテーションができる。勉強 会に積極的に参加して、自分の考えを述べることができる。				プレゼンテーシ ョン 勉強会での発表	10%	
多様性理解力						%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
合同調査や勉強会におけるコミュニケーション力が 50%、情報収集・分析力が 30%、プレゼンテーションおよびその他が各 10%で評価する。ポートフォリオで課題のフィードバックを行う。							
授 業 の 概 要							
<p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は 45 分とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書籍・文献調査の課題提示をポートフォリオで行う。</li> <li>・勉強会を実施する。</li> <li>・研究発表会を行う。</li> <li>・研究成果レポートの作成と提出。</li> </ul>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：特に指定しない。授業時の配布資料。</p> <p>参考書：『博物館と観光』（落合知子編・雄山閣）</p> <p>指定図書：『野外博物館の研究』（落合知子著・雄山閣）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習は、博物館や地域文化資源に興味を持ち、博物館専門職員である学芸員の資格取得を目指す学生の受講を希望する。教育者でもあり、研究者でもある学芸員は専門分野の知識は勿論のこと、コミュニケーション能力と礼節が求められるため、社会人としての基礎的能力を身に付けることを期待する。</p> <p>また、日頃から博物館施設に訪れ、展示を見学するだけでなく、博物館で開催されるワークショップや公開講座にも積極的に参加し、博物館の教育活動の在り方を学ぶことが望ましい。</p>							

※本演習を選択する学生は「学芸員資格課程」を履修することが望ましい。

※見学・調査費用は実費とする。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	専門演習の進め方・目標について理解する。	予習：シラバスを読む 復習：野外調査地の考案
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	野外調査地の事前学習①	野外地域文化資源野外調査地の場所・日程等について検討する。 調査地の具体的な内容と割振りをする。	予習：野外調査地予備調査 復習：今回の復習
4	野外調査地の事前学習②	各担当者の事前学習の発表。	予習：発表の準備 復習：発表の反省
5	野外調査地の事前学習③	各担当者の事前学習の発表。	予習：発表の準備 復習：発表の反省
6	野外調査	博物館および地域文化資源の調査をする。	予習：調査内容の確認 復習：調査結果の整理
7	レポート作成要領	研究成果レポートの作成要領を理解する。	予習：レポート内容確認 復習：作成要領の復習
8	文献資料の収集と分析	調査で収集した文献・資料を理解する。	予習：調査収集資料の確認 復習：調査結果の整理
9	レポート作成	レポートを作成する。	予習：レポート執筆準備 復習：レポート執筆
10	レポート作成	レポートを作成する。	予習：レポート執筆 復習：レポート執筆
11	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：レポート執筆 復習：口頭発表の準備
12	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
13	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省

14	レポートの添削指導	添削されたレポートを修正する。	予習：レポートの修正 復習：レポートの修正
15	前期レポートの受理	後期のまとめとして、修正した研究成果レポートを提出する。	予習：レポート提出準備 復習：文献・資料の整理

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B(CF202)			担当教員	熊谷 賢哉		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
運動生理学に関するテキストの輪読を通して、運動生理学に関する基礎的知識を理解すると共に、生理学的指標としての体力や運動能力の測定方法について理解することを目的とする。また、これらの基礎的知識を、自分が行っている種目や、関心がある種目に応用して考えることができるようになることを目的とする。更に、テキストで扱う、体力・運動能力の測定方法については、実践(実技)を通して修得することを目的とする。							① ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動生理学およびトレーニング科学に関する基礎的知識を理解することができる。</li> <li>体力・運動能力の測定方法を修得する。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼン用レジュメ</li> <li>実技試験</li> </ul>	10% 10%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が行っている種目や、興味がある種目を、トレーニング科学および運動生理学の観点から考えることができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼン後のディスカッション</li> </ul>	30%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディスカッションにおいて自分の意見を述べることができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーション</li> <li>プレゼン後のディスカッション</li> </ul>	50%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>プレゼンテーションおよびプレゼン後のディスカッション(80%)については、担当箇所に記載されている知識の把握のみならず、その周辺領域に関する知識も把握した上でのプレゼンテーションとする。プレゼン用レジュメ(10%)については、プレゼンテーションを行うにあたり、その内容がしっかりと要約できているかを評価基準とする。実技試験(10%)については、体力・運動能力の測定方法について理解した上で測定ができていないかを評価基準とする。</p>							
授業の概要							
<p>運動生理学に関するテキストを輪読していく(①担当箇所(担当者)の決定、②担当箇所を精読、③要約、④レジュメ作成、⑤報告、⑥ディスカッション)。なお、②～④の行程については、担当者が事前(ゼミ時間外)に準備するものとする。なお、レジュメのフィードバックは、授業内で行っていく。また、テキストの内容で、本学にて実習形式にて実際に行えるものについては、積極的に行っていく。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない  参考書：西園秀嗣他 著『スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法』大修館書店  指定図書：西園秀嗣他 著『スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法』大修館書店</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本ゼミで行う内容に興味を持ち積極的に参加してほしい。そのためには、ゼミ時間外に、ゼミで行った内容について復習を通して理解すると共に、ゼミで行った内容の周辺領域の知識について予習する等の取り組みを行ってほしい。また、知識の修得や理解の以前に、“ヒト”としてではなく“人”として、そして大学生としての最低限のマナーをもって教員やゼミ生と接してほしい。メリハリ(学ぶときは学び、遊ぶときは遊ぶ)を大切に!</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、ゼミの進め方について、 輪読担当箇所の設定	担当者：担当箇所（身体のかたちを知る(1)の精読・ 要約・レジュメ作成） 担当者以外：身体のかたちを知る(1)の精読
2	前学期の省察 と本学期の目 標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省 察を行い、それを基に本学期の目標設定に ついて確定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	輪読（1）	身体のかたちを知る(1) 「形態を測る」	担当者：担当箇所（身体のかたちを知る(2)の精読・ 要約・レジュメ作成） 担当者以外：身体のかたちを知る(2)の精読
4	輪読（2）	身体のかたちを知る(2) 「体脂肪を測る」	担当者：担当箇所（身体のかたちを知る(3)の精読・ 要約・レジュメ作成） 担当者以外：身体のかたちを知る(3)の精読
5	輪読（3）	身体のかたちを知る(3) 「骨を測る」	身体のかたちを知る(1)～(3)の復習
6	測定評価（1）	形態計測（測定評価）	担当者：担当箇所（身体の機能を知る(1)の精読・ 要約・レジュメ作成） 担当者以外：子供のためのトレーニング(1)の精読
7	輪読（4）	身体の機能を知る(1)「筋力を測る」	担当者：担当箇所（身体の機能を知る(2)の精読・ 要約・レジュメ作成） 担当者以外：子供のためのトレーニング(2)の精読
8	輪読（5）	身体の機能を知る(2)「持久力を測る」	担当者：担当箇所（身体の機能を知る(3)の精読・ 要約・レジュメ作成） 担当者以外：子供のためのトレーニング(3)の精読
9	輪読（6）	身体の機能を知る(3)「乳酸を測る」	担当者：担当箇所（身体の機能を知る(4)の精読・ 要約・レジュメ作成） 担当者以外：子供のためのトレーニング(4)の精読
10	輪読（7）	身体の機能を知る(4)「スポーツ心臓を測 る」	身体の機能を知る(1)～(4)の復習
11	測定（2）	最大酸素摂取量の測定（測定）	課題レポート（最大酸素摂取量の測定）
12	測定評価（2）	最大酸素摂取量の測定（評価）	担当者：担当箇所（身体の機能を知る(5)の精読・ 要約・レジュメ作成） 担当者以外：身体の機能を知る(5)の精読
13	輪読（8）	身体の機能を知る(5)「速度を測る」	担当者：担当箇所（身体の機能を知る(6)の精読・ 要約・レジュメ作成） 担当者以外：身体の機能を知る(6)の精読
14	輪読（9）	身体の機能を知る(6)「ジャンプ力を測 る」	担当者：担当箇所（身体の機能を知る(7)の精読・ 要約・レジュメ作成） 担当者以外：身体の機能を知る(7)の精読
15	輪読（10）	身体の機能を知る(7)「筋電図を測る」	身体の機能を知る(5)～(7)の復習

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CA111)			担当教員	滝 知則		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<b>三川内焼の特徴と魅力を、2つの言葉でガイドする</b> 後期においては、三川内焼と波佐見焼の比較を行う。この比較を通じ、三川内焼の特徴の説明を、前期よりも幅広くまた深くできるようにする。説明は、2つの言語で行うことをめざす。これらを通じ、佐世保の観光対象としての三川内焼の魅力を理解するとともに、コミュニケーション能力を伸ばす。							④ ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	研究対象とする陶磁器の歴史と制作過程を理解し、説明できる。				期末レポート	10%	
情報収集、分析力	資料調査、観察またはインタビューを行うことにより、対象とする陶磁器の情報を収集する。				期末レポート	○25%	
コミュニケーション力	調査結果を聞き手に分かりやすく並べ替え、説明できる。ゼミのメンバーならびに担当教員の発言を傾聴できる。				ゼミ内発表会 演習参加状況	◎35% 10%	
協働・課題解決力	波佐見町でのフィールドワークの際、3年生と一緒に調査を行うことができる。				フィールドワーク参加	△10%	
多様性理解力	ゼミのメンバーと自分の文化的背景の違いを認識したうえで、お互いを尊重して行動できる。				演習への参加状況	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
1. 評価基準を授業の時系列順に示すと、授業中の傾聴（毎回）、自他の文化の尊重（毎回）、フィールドワーク参加状況（実施時）、ゼミ内発表会、期末レポート（40%）である。 2. フィードバックは次の時点で行う。予習課題・復習課題：授業中、プレゼンテーション：当該授業時、期末レポート：提出締切後（個別に）							
授業の概要							
（1）前期の学修成果をまとめ、大学祭での学術発表を行う。（2）波佐見町でのフィールドワークを行う。（3）波佐見焼との比較を行うことで、三川内焼への理解をさらに深める。（4）学修の成果を目に見える形にする。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。							
教科書・参考書							
教科書：指定しない。 参考書：『平戸の文化と自然』、『皿山なぜなぜ』、『長崎学への道案内』、『日本やきもの史』等。 指定図書：大橋康二（2004）海を渡った陶磁器。吉川弘文館。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
（1）開国祭での学術発表への参加を、必須とする。（2）ようこそ JAPAN 外国語コンテストへの出場または運営の支援が望ましい（必須ではない）。（3）観光マネジメントコース、スポーツツーリズムコース、またはグローバルツーリズムコース履修生の受講を勧める。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	イントロダクション	この科目の目的と目標、ならびに学習スケジュールを確認する。	(予習) シラバスを読んてくる。 (復習) 後期のスケジュールを手帳等に記入する。
2	省察	2年前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	(予習) 面談の準備。 (復習) 面談結果を記録しておく。
3	学術発表準備 1	前期のレポートを基にした学術発表の準備。①グループ編成、②スライド制作の方針と作業分担。	(予習) 前期のレポート(紙媒体とデータ)を持参する。 (復習) 制作したスライドのページをマナバにアップする。
4	学術発表準備 2	学術発表用スライドの編集作業。	(予習) グループのメンバーのスライドを読んでおく。(復習) 自分のスライドの修正、編集
5	学術発表準備 3	学術発表のリハーサル。	(予習) 発表の練習をしてくる。 (復習) リハーサルで見つかった課題の改善
6	学術発表	大学祭期間中に学術発表を行う。	(予習) 発表の練習をしてくる。 (復習) 発表後の感想を、マナバに記入する。
7	波佐見焼の調査 1	①学術発表のふりかえり。 ②波佐見焼の概要、③波佐見町へのアクセス	(予習) 配布された資料を読んてくる。(復習) 調査結果を記録する。
8	波佐見焼の調査 2	①フィールドワーク時調査対象(窯元、観光施設)の検討	(予習) 調査対象の候補を選んておく。(復習) 調査結果を記録する。
9	波佐見焼の調査 3	①フィールドワーク時調査対象(窯元、観光施設)の選定、②行程の決定	(予習) 自分が希望する調査対象を選んておく。(復習) フィールドワークの準備
10	波佐見町フィールドワーク	フィールドワークの実施	(復習) フィールドワークの調査結果をマナバに記入する。
11	フィールドワークのふりかえり 1	①フィールドワーク調査結果の共有	(予習) マナバに記入された調査結果を読んてくる。(復習) 他メンバーの調査結果への感想を記入
12	フィールドワークふりかえり 2	①波佐見焼との比較を踏まえ、三川内焼の特徴と魅力を聴き手に伝えるプレゼン用のスライドを作成する。	(予習) プレゼンの作成 (復習) 見つかった改善点を考慮してプレゼン資料を修正し、次回で提示する。
13	フィールドワークふりかえり 3	②プレゼンテーションの内容を、リーフレット(A4版1ページ)にまとめる。	
14	ゼミ内発表会	①各ゼミ生によるプレゼンテーション(3分間) ②リーフレット ①・②とも「分かりやすさ」に留意し、相互に評価する。	(予習) プレゼンの練習 (復習) プレゼンの評価
15	全体のまとめ	①この科目で学習した内容のふりかえり、②所期の目標に到達したか、③期末レポートの指示	(予習) 目標の到達度を発表できるよう、準備する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	田中 誠		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な内容に関して、英語で表現できるようになり、多文化共生社会において交流することができる。</li> <li>特定のテーマに関して、自ら事前に調べ発表することで学びや知識を深め、様々な問題解決に役立つ思考や判断をすることができる。</li> <li>TOEIC の基礎的な内容を理解し、それを実際のコミュニケーションに活かすことができる。</li> </ul>							① ⑥
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・ 方法	評価 比率	
専門力	TOEIC 450 点レベルの語法問題を概ね解くことができる。				・テスト	25%	
情報収集、 分析力	基礎レベルの問題の情報収集、及び解決のための思考・判断能力を身につけ、その内容を発表することができる。				・受講者の発表	30%	
コミュニケーション力	(1) 基礎的なコミュニケーションのために必要な知識を理解し、コミュニケーションがうまくいかない場合は、なぜうまくいかないのかを説明することができる。				(1) 受講者の発表	25%	
	(2) コミュニケーション力をつけるための課題英文を適切に書くことができる。				(2) 課題	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎回、英文の音読筆写の課題を提出する。また、そのフィードバックは課題提出時にその都度行う。</li> <li>2. 14 回目に 30 分のテストを実施。テスト内容は TOEIC の形式とする。テスト後はポートフォリオでフィードバックを行う。</li> <li>3. 担当箇所を発表内容を評価の対象とする。準備不足の学生は減点となる。</li> </ol>							
授業の概要							
<p>英語と日本語の実際の場面で使用される様々な表現を学ぶとともに、与えられたテーマに関して議論し、理解を深める。また、TOEIC の基礎を学ぶ。(コースの指定は特にしない。)</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『脱文法 100 トピック実践英語トレーニング』中山誠一(他)、ひつじ書房。及び、プリント配布。</p> <p>参考書：『新 TOEIC TEST 出る単特急 金のフレーズ』TEX 加藤(著)、朝日新聞出版。</p> <p>『新 TOEIC TEST 入門特急 とれる 600 点』TEX 加藤(著)、朝日新聞出版。</p> <p>指定図書：『ことばと文化』鈴木孝夫(著)、岩波新書。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>コミュニケーション能力向上のために自ら学ぶという努力をしてもらいたい。この演習は、自ら学ぼうとする学生向けの内容となっている。英語と日本語双方の言語に関して、コミュニケーション能力の向上を目指し、ハイレベルな内容を取り扱うので、英語力と日本語力の両方がないと授業についていくのは難しい。特に、留学生は日本語能力が N1 レベルないと授業内容を理解するのは難しいであろう。毎回、課題も出すので、一生懸命学ぼうと努力する必要があることを理解して履修すること。また、長期インターンシップに参加する学生を歓迎する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	発表、オリエンテーション	休暇中の取り組みについて英語で発表。また、ゼミがスムーズに運営できるように、オリエンテーションを行う	予習：TOEICの最新情報について調べる 復習：音読筆写
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	to 不定詞を使いこなす	to 不定詞を使った表現、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究	予習：TOEIC 1-10 について調べる 復習：英文 1-10 音読筆写
4	if 節を使いこなす	if 節を使った表現、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究、	予習：TOEIC 11-20 について調べる 復習：英文 11-20 音読筆写
5	知覚構文を使いこなす	知覚構文を使った表現、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究、	予習：TOEIC 21-30 について調べる 復習：英文 21-30 音読筆写
6	論文の書き方①	論文のテーマを探す、資料の収集法、図書館活用法、カードの活用、PCの活用など（レベル1）、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究、	予習：TOEIC 31-40 について調べる 復習：英文 31-40 音読筆写
7	感情のこもった倒置	倒置を使った表現、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究	予習：TOEIC 41-50 について調べる 復習：英文 41-50 音読筆写
8	オブラートに包む否定表現	否定を使った表現、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究、	予習：TOEIC 51-60 について調べる 復習：英文 51-60 音読筆写
9	時制を使いこなす	時制に関する表現、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究、	予習 TOEIC 61-70 について調べる 復習：英文 61-70 音読筆写
10	臨場感を伝える表現	臨場感を伝えるための表現、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究	予習：TOEIC 71-80 について調べる 復習：英文 71-80 音読筆写
11	論文の書き方②	インターネット活用、切り口を考える、何をすべきかなど（レベル1）、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究、	予習：TOEIC 81-90 について調べる 復習：英文 81-90 音読筆写
12	数量詞を使いこなす	数量詞を使った表現、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究	予習：TOEIC 91-100 について調べる 復習：英文 91-100 音読筆写
13	可算名詞、不可算名詞を使いこなす	名詞に関する表現、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究、	予習：TOEIC 101-110 について調べる 復習：英文 101-110 音読筆写
14	的確に質問する	質問する際の表現、ディスカッション、TOEIC問題テスト実施、翻訳研究、	予習：試験の準備学習、 復習：音読筆写
15	まとめ	TOEIC問題、ディスカッション、まとめ	予習：TOEIC 111-120 について調べる 復習：英文 111-120 音読筆写、振り返り

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IB ( )			担当教員	大井田 かおり		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
旅行業をはじめとする観光業に就く、観光協会や行政の観光課に就職する、一般企業で対外交流担当になる、駐在員になる、を問わず、外国文化を熟知し、観光戦略を立てることができるようになるのがねらいである。自分がプロフェッショナルになりたい国もしくは地域を決め、知識を深めることにより、他の場所への応用が可能になる人材を育成する。							①⑥⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	外国文化を熟知し、その地域のプロフェッショナルとして諸事情が説明できる。				・授業態度 ・プレゼンテーション	5% 5%	
情報収集、分析力	書籍、新聞記事、雑誌記事、インターネット等を活用し、収集した情報の深読みと分析ができる。				・プレゼンテーション	20%	
コミュニケーション力	グローバルな視点から、地域文化を考察し、議論することができる。				・授業態度 ・プレゼンテーション	10% 30%	
協働・課題解決力	国情や習慣の違いを把握し、異文化の人々と協調できる。				・プレゼンテーション	10%	
多様性理解力	文化の違いを楽しみ、文化摩擦の際に間に入って仲裁が可能になるような知識を身につけることができる。				・授業態度 ・プレゼンテーション	10% 10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
プレゼンテーション(75%)、授業態度(25%)により総合的に評価する。授業態度は、他人の発表に対し、的確な質問やコメントができるかが評価の基準である。							
授業の概要							
与えられた課題について、主にパワーポイントによるプレゼンテーションを行ってもらおう。プレゼンテーションは2週間に1回まわってくる。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない 参考書：帝国書院編集部『旅に出たくなる地図 世界』 指定図書：特に指定しない							
授業外における学修及び学生に期待すること							
担当になった地域のニュースには気をつけ、その国の事情や文化について書かれた書籍は常に目にしておくこと。また、その国の料理、音楽、映画、土産物といった情報にも注意しておくこと。専門演習 IA で一か国(もしくは一地域)、専門演習 IB で一か国を選択する。ただし IA で選択した場所と IB で選択した場所は、アフリカ州、アメリカ州、アジア州、ヨーロッパ州、オセアニア州(国連による世界地理区分。南極以外)の地域区分がだぶらないようにする。留学生は IA で日本を選択し、IB では母国以外の場所を選択すること。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	ガイダンス	授業の進め方について説明する。各自がプロフェッショナルになりたい国もしくは地域を決定する。	各自がプロフェッショナルになりたい国を決めておく。
2	歴史・地理 1	対象地域の歴史や地理の特徴について考察する。	対象地域の歴史や地理について調べておく。
3	歴史・地理 2	対象地域の歴史や地理の特徴についてプレゼンテーションを行い、終了後、質疑応答、討論する。	対象地域の歴史や地理についてのプレゼンテーションの準備をしておく。
4	世界遺産とその他の観光地 1	対象地域の世界遺産とその他の観光地について考察する。	対象地域の世界遺産とその他の観光地について調べておく。
5	世界遺産とその他の観光地 2	対象地域の世界遺産とその他の観光地についてプレゼンテーションを行い、終了後、質疑応答、討論する。	対象地域の世界遺産とその他の観光地についてのプレゼンテーションの準備をしておく。
6	芸術について 1	対象地域の芸術（美術、音楽、文学、映画）等について考察する。	対象地域の芸術について調べておく。
7	芸術について 2	対象地域の芸術（美術、音楽、文学、映画）等についてプレゼンテーションを行い、終了後、質疑応答、討論する。	対象地域の芸術についてのプレゼンテーションの準備をしておく。
8	料理・土産について 1	対象地域の料理・土産について考察する。	対象地域の料理・土産について調べておく。
9	料理・土産について 2	対象地域の料理・土産についてプレゼンテーションを行い、終了後討論する。	対象地域の料理・土産についてのプレゼンテーションの準備をしておく。
10	風俗習慣の違い 1	対象地域の風俗習慣（宗教を含む）の違いについて考察する。	対象地域の風俗習慣の違いについて調べておく。
11	風俗習慣の違い 2	対象地域の風俗習慣（宗教を含む）の違いについてプレゼンテーションを行い、終了後、質疑応答、討論する。	対象地域の風俗習慣の違いについてのプレゼンテーションの準備をしておく。
12	アウトバウンドツアー計画 1	対象地域を訪問するツアーについて考察する（留学生は母国の人が日本を訪問するツアーについて考察する）。	対象地域のアウトバウンドツアー案を考えておく。
13	アウトバウンドツアー計画 2	対象地域を訪問するツアーを計画し、プレゼンテーションする（留学生は母国の人が日本を訪問するツアーを計画する）。終了後、質疑応答、討論する。	対象地域のアウトバウンドツアー案についてのプレゼンテーションの準備をしておく。
14	インバウンドツアー計画 1	対象地域の人を対象とした日本ツアーについて考察する（留学生は母国の人を対象とした日本ツアーについて考察する）。	対象地域の人を対象としたインバウンドツアー案を考えておく。
15	インバウンドツアー計画 2	対象地域の人を対象とした日本ツアーを計画し、プレゼンテーションする（留学生は母国の人を対象とした日本ツアーを計画する）。終了後、質疑応答、討論する。	対象地域の人を対象としたインバウンドツアー案についてのプレゼンテーションの準備をしておく。
16	定期試験		

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	乙須 翼		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
本演習では、受講者がテーマに関するデータや報告書、文献を読み、レジュメを作成して発表し、議論することを通じて、受講者の情報を収集する力、情報を批判的に分析する力、自分の考えを的確に説明する力、論理的な文書を書く力、これら基礎力の養成をはかりたい。テーマを、「子育て・家族・ジェンダーから世界を見る」とし、テーマに関わる国際比較のデータや文献の情報収集、講読、プレゼンテーションなどの作業を進める中で、各受講者が日本の子どもや家族、男女の関係性に関する価値観の特徴を理解すると共に、世界の国の人々の生活や文化、社会へと関心を広げていけるよう導きたい。							⑤⑥⑧
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	データや報告書、文献などを的確に読み取ることができる。テーマに関する情報を文献やインターネットなどを用いて収集することができる。				レジュメ発表と議論	15% 15%	
コミュニケーション力	発表のレジュメを指定された形で作成し、レジュメを用いてプレゼンテーションをすることができる。特定のテーマに関して他の受講者と議論することができる。				レジュメ発表と議論	20% 30%	
協働・課題解決力							
多様性理解力	日本の子どもや家族、男女の関係性に関する考え方について、その基本的特徴を説明することができる。日本と他国を比較し、その違いや共通点を背景となる文化や歴史等から自分なりに考察し、説明することができる。				レジュメ発表と議論	10% 10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
評価については、レジュメの様式・内容を 45%、発表と議論を 55%の比率で評価する。レジュメは、様式や文献引用ルールの順守等、基本的なアカデミック・スキルと、論理的な文章による考察や独自性などの観点から評価する。レジュメの作成方法については演習中に予め指示をし、演習内で随時、修正個所の指摘やアドバイス等、コメントする。発表と議論については、テーマに対して批判的・探究的な態度で臨んでいるか、発言し、議論に参加しているかなどを基準に評価する。演習の無断欠席（特に課題発表の担当となっている日の欠席）は大幅に減点する。							
授業の概要							
授業については概ね次の内容、手順によって進める。1. 受講者全員で「子育て・家族・ジェンダー」に関連して国際比較をしてみたいテーマまたは国を決定する。2. テーマまたは国に関する基本的な事項を確認し、理解を深める。3. 国際機関等が作成したテーマまたは国に関するデータや資料を概観し、国による違いや共通点を大まかに理解する。4. 各自興味を持った国またはテーマについて紹介する。なお、授業の進め方については受講者の人数等により若干変更する場合がある。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない 指定図書：牧野カツコ他『国際比較に見る世界の家族と子育て』（2010） 参考書：汐見稔幸編著『世界に学ぼう！子育て支援』（2003） 内閣府『男女共同参画白書（令和元年版）』（2019） ルドヴィクア・ガンバロ他著『保育政策の国際比較』（2018）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>※発表担当でない回も必ず資料を事前に講読し、キーワードの意味や関連資料及び新聞等を調べて演習に臨むこと。</p> <p>※本演習は下記いずれかに該当する学生の受講を希望する。コースについては問わない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職課程を履修しているもの</li> <li>・将来指導者等として子どもに関わろうとするもの</li> <li>・子どもや教育の問題について関心のあるもの</li> <li>・人々の生活・文化・社会の国際比較に興味があるもの</li> </ul> <p>※本演習受講者（特に教職課程を履修せずに本演習を希望する者）には「教育学」（前期開講）の受講を勧める。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介および演習の進め方を説明する。	予) シラバスの確認
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ホスピタリティ・ルーブリックを用いて前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別面談を行う。	予) 前学期の省察と本学期の目標設定 復) 本学期の目標の確認
3	論評会①	夏季休暇中の課題であった課題図書の評読会を行い、各自が課題図書について作成したレジメを用いて発表する。	予) 発表レジメの作成 復) レジメをもとに議論を振り返る
4	論評会②	夏季休暇中の課題であった課題図書の評読会を行い、各自が課題図書について作成したレジメを用いて発表する。	予) 発表レジメの作成 復) レジメをもとに議論を振り返る
5	論評会③	夏季休暇中の課題であった課題図書の評読会を行い、各自が課題図書について作成したレジメを用いて発表する。	予) 発表レジメの作成 復) レジメをもとに議論を振り返る
6	興味関心を高める	各自興味を持った子育て・家族・ジェンダーに関する新聞記事を紹介する。また本演習で国際比較をしてみたいテーマまたは国を受講者全員で一つ決定する。	予) 新聞記事の収集と発表準備 復) 議論を振り返る
7	基礎知識の確認をする①	決定したテーマまたは国に関する基本的な語句や事項を確認し、理解を深める。	予) テーマまたは国に関する基本事項の整理 復) テーマまたは国に関する基本的な語句や事項の復習
8	基礎知識の確認をする②	決定したテーマまたは国に関する現状を確認し、理解を深める。	予) テーマまたは国に関する現状を整理する 復) テーマまたは国に関する現状の復習
9	興味関心を深める①	決定したテーマまたは国に関する国際比較のデータや資料を概観する。	予) テーマまたは国に関するデータや資料の収集 復) データの見直し
10	興味関心を深める②	決定したテーマまたは国に関する国際比較のデータや資料を概観する。	予) テーマまたは国に関するデータや資料の収集 復) データの見直し
11	報告手法・情報収集の方法を習得する	報告手法(担当者の割り振り、レジメの作成方法・形式、プレゼンテーションの方法など)を説明する。情報収集(文献・インターネット等)の方法について説明し、情報収集を始める。	予) プレゼンテーションの手法について調べる 復) 報告手法の確認
12	報告・議論する①	担当者がレジメを用いて担当テーマまたは国について報告し、全員で報告内容について議論する。	予) 資料の収集と報告準備 復) レジメをもとに議論を振り返る
13	報告・議論する②	担当者がレジメを用いて担当テーマまたは国について報告し、全員で報告内容について議論する。	予) 資料の収集と報告準備 復) レジメをもとに議論を振り返る
14	報告・議論する③	担当者がレジメを用いて担当テーマまたは国について報告し、全員で報告内容について議論する。	予) 資料の収集と報告準備 復) レジメをもとに議論を振り返る
15	報告・議論する④	日本と世界の子ども・家族・ジェンダーに関する価値観の違いについて本演習で学んだことを整理し、各自発表する。春のオリエンテーション日程等を確認する。	予) 発表準備 復) レジメをもとに議論を振り返る

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	尾場 均		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
放送用プロ機材を使った映像作成と FM 放送の実践をおこない、番組を制作、放送でメディアリテラシーを学ぶ。資格取得を目指す。(コンピュータ関連・色彩検定・ビジネス著作権・インターネット情報士など) 国際観光学科で学んだ観光に関する知識を活かし実践的な情報発信の能力と情報における判断能力を身につける。佐世保市中心市街地および佐世保市のまちづくりに関する調査活動や IT 関連の教育活動などを実践する。昨年度は FM 放送の番組に加え、渋谷・佐世保短編映画祭の実践や地域活性化イベントを実施した。							⑥ ⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	情報機器や情報技術の出来事に常に興味を持ち、正しく理解することができる。				課題レポート (ポートフォリオ)	10%	
情報収集、分析力	発信する情報内容に責任を持ち、情報の真偽を判断することができる。				課題レポート (ポートフォリオ)	30%	
コミュニケーション力	情報に関するツールを使いこなし、プレゼンテーション力を身につけることができる。				課題提示に対する放送によるプレゼンテーション	40%	
協働・課題解決力	地域活性化とイベントに興味を持ち、専門演習での活動に積極的に・意欲的に参加することができる				授業態度・活動への参加度	10%	
多様性理解力	社会人として必要な幅広い教養的知識を身につける。				文献を要約	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
活動への積極的な参加態度、グループディスカッションでの内容、ポートフォリオ・Web による情報交換の活用度、地域連携活動、映像などの制作・ラジオ番組に必要な取材および原稿内容と発表内容を評価する。情報コンテンツの理解と開発内容、検定試験への取り組み、ポートフォリオ・Web による情報交換の活用、地域における調査やイベントの企画・実施等のフィードバックは、ポートフォリオを通して行う							
授業の概要							
インターネット等の新しい技術を使って観光情報について実践で学ぶため、必ず個人の情報機器を使用する。企画やディスカッション、プログラム開発は演習室にて自分の情報機器でおこなう。まちづくりや放送に関する演習は中心市街地に設けられた放送スタジオ、および現地にて実施する。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。							
教科書・参考書							
教科書：なし 参考書：なし 指定図書：『伝える力 2』 PHP ビジネス新書							
授業外における学修及び学生に期待すること							
授業外で多くの活動を実施するが、欠席なく積極的に参加することを期待する。情報機器や放送機器の活用により、情報コンテンツの企画力・実践力を身につけ、まちづくりや地域振興に関係する人々と出会い、一緒に参加し専門知識や社会人基礎力を身につけることを期待する。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	専門演習の導入	演習の説明および授業における到達目標の決定 検定試験への準備（内容把握）	予：事前に研究室ホームページを参照し活動内容を理解
2	番組視察	放送現場の視察およびまちづくりに関する活動	予：活動拠点・スタジオの場所を把握する。
3	ポートフォリオ・Web 登録と演習	ポートフォリオ・Webの登録と演習 個人目標設定のための面談を実施する	予：SNSの登録とメールアドレスを準備
4	インターネット基礎	インターネットの仕組み 検索術・画像・データ管理	予：通信機器を準備
5	テーマを決める	地域活性化のテーマをグループで決定して目標を明確にする。	予：地域活性化事業の事例を集めること
6	検定試験への取り組み	多種多様な検定試験へ向けての演習（実践系の資格）	予：規定様式の書式や設定を事前に確認
7	番組制作	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	予：番組テーマの決定
8	情報発信	番組出演、まちづくりに関する活動	予：作成原稿の確認と読み合わせ
9	イベント計画	テーマに関するスケジュールの制作	予：開催日から逆算してスケジュールを決定する
10	イベント準備	イベント実行のための調査	予：開催場所の調査・確認
11	番組制作	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	予：番組テーマの決定
12	情報発信	番組出演、まちづくりに関する活動	予：作成原稿の確認と読み合わせ
13	番組制作	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	予：番組テーマの決定
14	情報発信	番組出演、まちづくりに関する活動	予：作成原稿の確認と読み合わせ
15	成果発表	情報発信メディア（TV、ラジオ、インターネット）を通じて成果を発表する。	予：発表準備・担当を明確にする。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	佐野 香織		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、ことば、文化、社会の教育・学習のうち、外国人受け入れ政策等日本を取り巻く社会状況と日本語教育に関する基礎的な知識を学ぶ。そして、多様な人々が働くビジネスの現場に焦点をあて、現場でおこる課題を様々な観点から協働で検討し、解決していく力を養うことを目的とする。							①④⑤⑥⑧⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	多文化が進む働く場（企業、アルバイトなど）と社会に関する基礎知識を理解することができる。				レポート	15 %	
情報収集、分析力	身近な課題の情報収集をし、分析、考察することができる。				ケース資料 事前・事後学習	10 % 20 %	
コミュニケーション力	他者に課題を分かりやすく説明し、話し合い検討することができる。				ケースセッション 運営 ディスカッション	45 %	
協働・課題解決力	グループで課題発見活動を協働することができる。				相互評価 自己評価	10 %	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
本演習で学んだ基礎知識に関する理解と考察（事前・事後学習、レポート）で35%、身近な課題を考え検討するケース運営（ケース資料、ケース運営、ディスカッション）で55%、授業で行うグループディスカッション、活動参加貢献、協働での学びへ評価（自己、相互評価）で10%、で評価する。							
授業の概要							
本演習では、多文化共生を考えていくにあたり重要な外国人受け入れ等に関する社会状況と日本語教育に関する基本的な情報、知識を学ぶ。これらの知識を踏まえた上で、多文化が進む日本企業、海外の日系企業において実際にあった課題（ケース）を協働で整理・討論し、解決するケース学習を行う。そして身近にある実際の課題についてケースを書き、ケースセッションを運営する。スケジュールは変更することがある。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：近藤彩ほか（2013）『ビジネスコミュニケーションのためのケース学習 職場のダイバーシティで学び合う教材編』ココ出版 参考書：適宜紹介する 指定図書：万城目正雄（編著）（2020）『新しい多文化社会論 インタラクティブゼミナール 共に拓く共創・協働の時代』東海大学出版部							
授業外における学修及び学生に期待すること							
このゼミは、様々な観点から「日本語」「ことば」「教育」「学習」について考え、ことばで人と社会をつなぐ実践をしてみたい学生を対象としています。教員をみざしたい人、広い意味で「ことば」と「学び」に興味がある人の受講を期待します。留学生が受講する場合は、ケースを読み解くことができること、自分のことばでまとめながらディスカッション運営できること、ケース文を書くことができる日本語力が必要です。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期に学んだことをふりかえり、担当教員と共に本学期の個人目標をたてる	学期の予習：個人ポートフォリオの作成 復習：個人ポートフォリオの見直し
2	オリエンテーション	自己紹介、本演習の目的、方法論の説明 目標、スケジュール、課題の確認	予習：アルバイトや暮らしの中で困ったことについて話せるようにしてくる
3	多文化共生社会と日本語教育	現代日本の多文化化の状況に関する資料を読み解き、日本語教育との関連を理解する	予習：ハンドアウトを読み問いにこたえる 復習：まとめを書く
4	ケース学習とは	ケース学習の理論、方法について説明し、実際に学生が作ったケースで学習体験することで理解を深める。	予習：ハンドアウトを読み問いにこたえる 復習：まとめを書く
5	ケース 1-1	ケースの内容について確認、検討する	予習：ケース精読 復習：省察シート
6	ケース 1-2	ケースについての議論、意見交換をする	予習：タスク 復習：省察シート
7	ケース 2-1	ケースの内容について確認、検討する	予習：ケース精読 復習：省察シート
8	ケース 2-2	ケースについての議論、意見交換をする	予習：タスク 復習：省察シート
9	ケース 3-1	ケースの内容について確認、検討する	予習：ケース精読 復習：省察シート
10	ケース 3-2	ケースについての議論、意見交換をする	予習：タスク 復習：省察シート
11	私たちのケースを考える 1 ケースとは	ケースの考え方の確認、ケースの書き方を学び、ケース案を考える	予習：ハンドアウト精読 復習：ケースを考える
12	私たちのケースを考える 2	自分の文脈でケースを書き、検討する	予習：ケース案を書いてくる 復習：ケース修正、提出
13	ケースセッション ①	ケースセッションを運営し、ディスカッションに参加する	予習：ケースセッション準備 復習：省察シート
14	ケースセッション ②	ケースセッションを運営し、ディスカッションに参加する	予習：ケースセッション準備 復習：省察シート
15	ケースセッション ③	ケースセッションを運営し、ディスカッションに参加する	予習：ケースセッション準備 復習：省察シート
16	ふりかえり	今学期の学びとセッションのふりかえりを行い、次学期の学びを考える	予習：これまでの省察 個人ポートフォリオ記入 レポート作成

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	城前奈美		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<b>テーマ：グループワークを通じて、「観光の経済社会への影響」について事例研究をしよう。</b> 1つの研究テーマをグループで見出し、共同でその研究テーマに関して先行研究を調べ、研究調査を実践し、報告書を作成し、報告する。この一連の研究過程を通して、研究とはどのようなものかを学び、共同作業による連帯意識を構築することができる。							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	(1)観光経済学や観光社会学の諸理論について理解できる。 (2)研究テーマに関する研究手法や研究の意義を理解できる。				・グループによる課題提出 ・グループによるプレゼンテーション	20 %	
情報収集、分析力	(1)先行研究がどのように活かせるかを述べるができる。 (2)研究調査の構成を組み立てることができ、調査結果を的確に分析することができる。				グループディスカッション	30 %	
コミュニケーション力	調査結果を的確に伝えることができる。				グループによるプレゼンテーション	40 %	
協働・課題解決力	(1)計画的に準備し実行することができる。 (2)研究調査に積極的に参加し、貢献できる。				・課題提出 ・グループワークの取り組み	10 %	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
課題提出はワード文書とし、グループによる発表は、パワーポイント資料を用いて行う。また、その提出方法は、ポートフォリオを使用するため、ネットワーク環境があることを前提とする。 課題提出においては、提出期日を守っているか、体裁が整っているか、論理構造が整っているか等々を評価する。発表においては、聞き手に分かりやすく発表しているか、資料の提示が適切か、質問に的確に答えられるか等々を評価する。ディスカッションにおいては、積極的に議論に参加しているか、議論を建設的に組み立てているか等々を評価する。							
授業の概要							
グループで研究テーマを決め、その研究テーマに関する先行研究をまとめ、独自の調査内容を決めて、調査を実行する。調査結果を集計し、分析し、報告書をまとめ、発表報告し、一連の研究について討論する。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。							
教科書・参考書							
教科書：ジェームズ・マック（2005）『観光経済学入門』日本評論社 指定図書：ジェームズ・マック（2005）『観光経済学入門』日本評論社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
欠席や遅刻をする場合は、必ず事前に連絡をすること。また、自主的に積極的に協力して学んでいくこと。「長期インターンシップ」を同時に履修することを推奨する。							
※本演習を選択するものは、次のコースもしくは専修課程を履修することが望ましい。 観光マネジメントコース、旅行業務取扱管理者養成課程、							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション 省察、個人目標の設定	ゼミ概要やスケジュールについて、オリエンテーションする。前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	研究テーマを考える。
2	共同研究(1)研究テーマの設定	共同研究する研究の目的を明らかにし、研究テーマを設定する。	研究テーマに関する先行研究を収集する。
3	共同研究(2)先行研究調査	研究テーマに関する先行研究を収集し解題し報告する。	先行研究を解題しまとめる。
4	共同研究(3)調査内容の決定	研究テーマに基づき、調査内容を決定する。	調査内容について案を作成する。
5	共同研究(4)調査方法の検討	調査方法を学び、有効な調査方法を確定する。	有効な調査方法、役割分担を検討する。
6	共同研究(5)調査	実地調査を実施する。	調査計画を検討する。
7	共同研究(6)調査	実地調査を実施する。	調査計画を定める。
8	共同研究(7)調査データの確認作業	調査データをチェックする方法を学び、チェックする。	入力作業をする。
9	共同研究(8) 調査結果の集計	調査結果を集計し、まとめる。	入力作業をする。
10	共同研究(9)分析	集計した結果から各種効果を算出する。	調査結果をまとめる。
11	共同研究(10)分析結果の検討	各種効果について討論する。	分析結果をまとめる。
12	共同研究(11)報告書の作成	報告書の構成および作成分担を決定する。報告書作成上のグラフ、脚注、参考文献の記述方法を学ぶ。	報告書の構成を考える。
13	共同研究(12)報告書の作成	発表用のパワーポイント資料を作成する。	資料を作成する。
14	共同研究(13)研究発表	一連の研究を発表報告し、討論する。	発表に向けた原稿を作成する。質疑応答対策をする。
15	共同研究(14)研究の振り返り	一連の研究を振り返り、研究の成果と研究の課題を振り返る。	研究を振り返る。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	新藤 照夫		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
異文化コミュニケーションをテーマとし、基礎理論やケーススタディを踏まえながら、観光分野でも求められる文化背景の異なる人々との円滑なコミュニケーションの知識やスキルの習得を目指す。また、初年次で学修したスタディスキルやコミュニケーションスキルの向上も図る。							④⑤⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標			評価手段・方法		評価比率	
専門力	・異文化コミュニケーションについての基礎理論や専門用語を理解し、具体例を挙げて簡潔に説明できる。			・課題		15%	
情報収集、分析力	・異文化コミュニケーションの事例を収集し、分類できる。 ・調査した内容をレポートにまとめることができる。			・レポート		30%	
コミュニケーション力	・テーマに対しアサーティブなディスカッションを実践できる。 ・習得した知識や調査した内容をまとめ、発表できる。			・ディスカッション ・プレゼンテーション		20% 20%	
協働・課題解決力	・グループワークによって、与えられたテーマに対する解決法を導き出すことができる。			・グループワーク参加度		15%	
多様性理解力							
出 席				受験要件			
合 計				100%			
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を課し、専門用語の理解の確認を図る (15%)</li> <li>・レポートを課し、専門知識の理解度やスタディスキルの習得度を評価する。(30%)</li> <li>・ディスカッション、プレゼンテーションによって、コミュニケーション力とともに習得した知識やスキルを踏まえた学修の成果を評価する。(40%)</li> <li>・授業時の学修状況やグループワークの参加度合を評価する。(15%)</li> <li>・レポート、プレゼンテーション、グループワークに対して、ポートフォリオおよび授業時にフィードバックを行う。</li> </ul>							
授業の概要							
<p>この授業では、日常的な場面の異文化コミュニケーションのケーススタディや初歩的な異文化トレーニングを通じて、異文化コミュニケーションの基礎理論や専門用語の理解を中心とする。また、レポート作成、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、フィールドワークによって、スタディスキル、コミュニケーションスキル、ソーシャルスキルの向上も図る。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『異文化コミュニケーション・ワークブック』八代京子 他著（三修社）</p> <p>参考書：『異文化トレーニング：ボーダーレス社会を生きる』八代京子 他著（三修社）</p> <p>指定図書：『異文化コミュニケーション・ワークブック』八代京子 他著（三修社）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、遅刻、無断欠席、途中退室などない積極的な参加を強く求めていく。</li> <li>・日常生活の中で、文化背景の異なる他者との異文化コミュニケーションを意識して行動してもらいたい。</li> </ul>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標を設定する	・予習:前学期の省察と本学期的目標設定の下書き ・復習:本学期的目標設定の清書
2	非言語コミュニケーション①	表情、アイコンタクトについての解説、セルフチェック、ディスカッション	・予習:第4章、1-2項 ・復習:表情、アイコンタクトに関するポートフォリオの回答
3	非言語コミュニケーション②	ジェスチャー、タッチングについての解説、セルフチェック、ディスカッション	・予習:第4章、3-4項 ・復習:ジェスチャー、タッチングに関するポートフォリオの回答
4	非言語コミュニケーション③	空間・時間の感覚についての解説、セルフチェック、ディスカッション	・予習:第4章、5-6項 ・復習:空間・時間の感覚に関するポートフォリオの回答
5	価値観①	ことわざ、絵本に見られる価値観についての解説、ディスカッション	・予習:第5章、1項 ・復習:ことわざ、絵本に関するポートフォリオの回答
6	価値観②	基本価値志向についての解説、ディスカッション	・予習:第5章、2-3項 ・復習:基本価値志向に関するポートフォリオの回答
7	ケーススタディ	見えない価値観を題材としたPBL	・予習:第4章、第5章の振り返り ・復習:PBLの成果に関するポートフォリオの回答
8	自己を知る①	対立管理スタイル、異文化適応力についての解説、セルフチェック、ディスカッション	・予習:第6章、1-2項 ・復習:対立管理スタイルに関するポートフォリオの回答
9	自己を知る②	共感についての解説、セルフチェック、ディスカッション	・予習:第6章、3項 ・復習:共感に関するポートフォリオの回答
10	異文化コミュニケーションスキル①	DIE メソッド、アサーティブコミュニケーションについての解説、グループワーク	・予習:第7章、1-2項 ・復習:DIEメソッドに関するポートフォリオの回答
11	異文化コミュニケーションスキル②	エポケー、アイスブレイクについての解説、グループワーク	・予習:第7章、3-5項 ・復習:アサーションに関するポートフォリオの回答
12	フィールドワーク	テーマに関するフィールドワーク	・予習:フィールドワークの準備 ・復習:調査資料のまとめ
13	レポート作成	フィールドワークに基づくレポート作成	・予習:レポートの構想案作成 ・復習:レポートの見直し
14	レポート作成・プレゼンテーション資料作成	テーマに関するレポート作成、プレゼンテーション資料作成	・予習:プレゼンテーション資料準備 ・復習:レポートの仕上げ、プレゼン資料の見直し
15	プレゼンテーション	テーマに関する発表	・予習:プレゼンのリハーサル ・総復習、レポート提出

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	早坂 昌彦		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の 類 型
<p>この半期の専門演習のメインテーマは「チームワーク」である。どんなに技能が高い人でも、一人では仕事を完結できないし、成果もその範囲内に留まってしまうだろう。よって、社会に出て意味のある仕事をしようと思ったら、どの分野においてもチームワークが必要不可欠である。</p> <p>よって、この半期では、チームワークに特化した反復演習を行う。具体的には、毎回、別々のメンバーとチームを組んでもらい、冒頭で提示したテーマに関し、チームで検討・作業の上、その成果をチームでショートプレゼンテーションを行ってもらおう。元々仲の良い人、気が合う人としが仕事ができないようでは成果を出せる場面が限られてしまう。どんなメンバーとでも、一定のパフォーマンスが出せなければならない。それは臨機応変に自分の役割・強みを把握し、常に自分のできる範囲でチームに貢献する姿勢・技能を身に付けるということである。また、様々なタイプのメンバーと一緒に仕事を行うことで、コミュニケーション力が身に付き、さらに人の多様性に関する理解が得られるであろう。この演習が終了し、次学年に進級する際、学生は他者と一緒に仕事を行うことに関し自信を持てるようになるだろう。</p> <p>なお、上記が全受講者共通の内容であるが、同時に、3つのチーム（①観光事業・IR チーム、②地域振興チーム、③起業・新規事業チーム）に分かれ、別途自主的な活動を行い、定期的にこの場でチーム毎に活動内容をプレゼンしてもらおう。</p>							⑤⑦⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	あるテーマに関し、チームで一定期間準備を行い、プレゼンテーションを行うことができる。				2 回のプレゼンテーション	40%	
コミュニケーション力	毎回、あるテーマに対し、チームで短期間に意見をまとめショートプレゼンテーションを行うことができる。				毎回のショートプレゼンテーション	60%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>評価は、毎回演習の中で行ってもらおうショートプレゼンテーションと、2回のプレゼンテーションの内容に基づき行う。またその評価はチーム毎に行う。なお、毎回の演習での参加態度および自主的な活動も含めた演習の運営に関する態度も加味する。</p>							
授業の概要							
<p>基本的な進め方として、毎回の演習を次の2つの時間帯に分け、進めていく。</p> <p>① 毎回別々の3人程度のチームを作り（チームは教師がランダムにアレンジする）、A4 1枚程度の文書（例：新聞の社説）を読んでもらい、その場でチームとしての考えをまとめ、ショートプレゼンテーションを行ってもらおう。</p> <p>② 各チーム（①観光事業・IR チーム、②地域振興チーム、③起業・新規事業チーム）毎に、活動状況に関するプレゼンテーションをしてもらおう。</p> <p>ただし、詳細な進め方は、学生の希望・関心、負担感等を踏まえ、微調整することがあり得る。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書／参考書：特に指定しない。必要な資料等は演習時に配布する。</p> <p>指定図書：麻野耕司「ザ・チーム 5つの法則」幻冬舎</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>この演習では当然ながら各学生の主体的な取組みが必須である。主体的に取り組むためには、各学生がこの演習の内容が自分の関心事項であるか、将来役に立つと思える必要がある。よって、そう思えない場合は、その旨教師や演習の仲間に伝え、改善を求める必要がある。このように、演習の運営にも自分事として主体的に関わっていくことが期待されている。その経験は、学生が社会に出てから必ず役に立つ。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	全体の導入及び専門演習 I Aのおさらい	専門演習 I Aの取組みを振り返った後、専門演習 I Bでどのような演習を運営していくのか等を確認する。	予習：専門演習 I Aの目標達成度を自己評価しておく。
2	個人面談・目標設定	演習を開始するにあたって、個々の学生の興味のあり方の確認や、個人目標の設定等を行う。	予習：キャリアワークシートに記入する。
3	「チームワーク」演習①	上記授業の概要に基づき、「チームワーク」を身に付けるための演習を行う。	復習：演習の資料を再読する。
4	「チームワーク」演習②	上記授業の概要に基づき、「チームワーク」を身に付けるための演習を行う。	復習：演習の資料を再読する。
5	「チームワーク」演習③	上記授業の概要に基づき、「チームワーク」を身に付けるための演習を行う。	復習：演習の資料を再読する。
6	「チームワーク」演習④	上記授業の概要に基づき、「チームワーク」を身に付けるための演習を行う。(プレゼンテーション①の課題とチームリストを提示する)	復習：演習の資料を再読する。
7	「チームワーク」演習⑤	上記授業の概要に基づき、「チームワーク」を身に付けるための演習を行う。	予習：プレゼンテーション①の準備 復習：演習の資料を再読する。
8	「チームワーク」演習⑥	上記授業の概要に基づき、「チームワーク」を身に付けるための演習を行う。	予習：プレゼンテーション①の準備 復習：演習の資料を再読する。
9	プレゼンテーション①	プレゼンテーション①の発表を行う。	予習：プレゼンテーション①の発表の準備 復習：発表の資料を再読する
10	「チームワーク」演習⑦	上記授業の概要に基づき、「チームワーク」を身に付けるための演習を行う。	復習：演習の資料を再読する。
11	「チームワーク」演習⑧	上記授業の概要に基づき、「チームワーク」を身に付けるための演習を行う。	復習：演習の資料を再読する。
12	「チームワーク」演習⑨	上記授業の概要に基づき、「チームワーク」を身に付けるための演習を行う。(プレゼンテーション②の課題とチームリストを提示する)	復習：演習の資料を再読する。
13	「チームワーク」演習⑩	上記授業の概要に基づき、「チームワーク」を身に付けるための演習を行う。	予習：プレゼンテーション②の準備 復習：演習の資料を再読する。
14	「チームワーク」演習⑪	上記授業の概要に基づき、「チームワーク」を身に付けるための演習を行う。	予習：プレゼンテーション②の準備 復習：演習の資料を再読する。
15	プレゼンテーション②及びまとめ	プレゼンテーション②の発表を行う。 半期の演習の成果を振り返る。	予習：演習の成果を振り返る。 復習：発表の資料を再読する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	宮良 俊行		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<p>本ゼミでは、日本政府の施策である「生涯スポーツ社会の実現」へ向けた「総合型地域スポーツクラブ」の設立・育成の方法や基礎知識を学ぶことである。「総合型地域スポーツクラブ」の実態や存在意義をおさえ、プレゼンテーションすることができることが目標である。そして、学んだ知識を活かし実践の場として、「チャレンジスポーツ」などのスポーツイベントに積極的に参加し、主体的に取り組むことをねらいとしている。</p>							④、⑤、⑥、⑦、⑩、⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	「総合型地域スポーツクラブ」に関することを説明することができる。また、スポーツイベントの企画、運営を補助することができる。				・受講者の発表 ・企画書、発表資料の作成	15% 20%	
情報収集、分析力	地域におけるスポーツ環境の様々なデータを読み取り、分析することができる。				・資料の作成	15%	
コミュニケーション力						%	
協働・課題解決力	「チャレンジスポーツ」や「スポーツフェスタ」のイベントで活動することができる。また、それらのイベントの課題・問題点を発見し指摘することができる。				・全体討議 ・課題レポート	20% 30%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>課題レポートについては、理論的かつ実践的な内容をもつように書くことができたかを評価する。また、文字数不足および誤字・脱字は、減点の対象とする。授業態度・授業への参加については、発表の内容と討論への参加度合を評価する。ポートフォリオで課題レポートのフィードバックを行うので確認すること。</p>							
授業の概要							
<p>年間を通して、「総合型地域スポーツクラブ」に関する資料を購読し、基礎知識を習得し、問題意識を高めていく。また、グループワークを通して、全員で議論ができるようになることを目指す。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『ジグソーパズルで考える 総合型地域スポーツクラブ』黒須 充 大修館書店 参考書：授業の中で指示する。 指定図書：『スポーツ解体新書』玉木正之 NHK 出版</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>各地域で活動している総合型地域スポーツクラブに出向いて行ったボランティア活動を積極的に実施し、社会貢献して欲しい。また、指定された教科書を事前に読んでおくこと。 ※本演習を選択するものは次のコースを履修することが望ましい</p>							

スポーツツーリズム			
回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	総合型地域スポーツクラブの運営方法	スポーツクラブとホスピタリティ・マネジメントについて	先行文献を調べ、レジュメを作成する。
2	総合型地域スポーツクラブの運営方法	ニュースポーツの有効活用について	先行文献を調べ、レジュメを作成する。
3	総合型地域スポーツクラブの運営方法	障がい者スポーツと生涯スポーツについて	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
4	総合型地域スポーツクラブの運営方法	プロスポーツクラブにおける地域スポーツクラブについて	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
5	総合型地域スポーツクラブの必要性和社会的役割	学校週5日制と学校運動部活動について	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
6	総合型地域スポーツクラブの必要性和社会的役割	スポーツ活動とボランティアについて	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
7	総合型地域スポーツクラブの必要性和社会的役割	競技力向上におけるクラブの役割について	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
8	総合型地域スポーツクラブの必要性和社会的役割	スポーツ施設の現状とこれからの施設運営のあり方について	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
9	総合型地域スポーツクラブのまとめ	総合型地域スポーツクラブについてまとめる。	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
10	スポーツイベント（継続型）の企画運営について	スポーツイベント「チャレンジスポーツ」に関する企画、運営を学習する。	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
11	スポーツイベント（単発型）の企画運営について	スポーツイベント「スポーツフェスタ」に関する企画、運営を学習する。	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
12	「チャレンジスポーツ」の企画運営補助	「チャレンジスポーツ」の企画を補助し、実践する。	「チャレンジスポーツ」の企画を準備する。
13	「チャレンジスポーツ」の企画運営補助	「チャレンジスポーツ」の運営を補助し、実践する。	「チャレンジスポーツ」の運営をシュミレーションする。
14	「スポーツフェスタ」の企画運営補助	「スポーツフェスタ」の企画を補助し、実践する。	「スポーツフェスタ」の企画を準備する。
15	「スポーツフェスタ」の企画運営補助	「スポーツフェスタ」の運営を補助し、実践する。	「スポーツフェスタ」の運営をシュミレーションする。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	山内 美穂		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この演習では、日本語文法や観光の日本語について考えます。日本語母語話者が日常当たり前に使っている「ことば」の背後にある「ルール」を見出すことが文法を考えることです。演習を通じて、日本語を母語としない人に様々な日本語の文法における「なぜ？」を説明できる力を養います。また観光における分かりやすい日本語についても考えます。							①④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	自分が担当した「課題」の答えについて分かりやすい資料を作れる。学んだ文法ルールについて考えて答えを出すことができる					発表資料 プリント問題の 答え発表	10% 20%
コミュニケーション力	自分が担当した「課題」の答えについて自分のことばで説明できる。他人の発表や授業で提示される教員からの「問題」に対して意見を述べられる。					発表 議論	30% 20%
協働・課題解決力	グループメンバーと協力して教材や資料を作成できる					発表準備	20%
多様性理解力							
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
自分の担当箇所の発表資料の作成で10%、発表で30%、プリント問題の答え発表で20%、授業の議論への参加で20%、発表準備の状況で20%を評価します。発表に関しては、授業中または個別にコメントの形でフィードバックします。							
授業の概要							
履修者は、教員が投げかけたテーマについて考え、議論しながら、日本語の文法を学修します。また、各テーマの発表者は、授業の中で指定された教科書の「問題」や教員の出す問題に対して十分に考え答えを準備しておき、授業の中で発表します。発表者以外の人、配布した資料の該当箇所を読みこみ、積極的に質問やコメントし、全体でディスカッションします。その他、地元佐世保の魅力を「やさしい日本語」で伝える演習も行います。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。							
教科書・参考書							
教科書：授業中に指示する 参考書：庵功雄ほか『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク，2000 指定図書：庵功雄ほか『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク，2000							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習は、日本語母語話者が使用する「ことば」に関心がある学生や、日本語を母語としない人に日本語を教えたいと思っている学生や観光の日本語に興味がある学生の受講を希望します。留学生の受講に関しては、授業内容が理解でき、自分のことばで説明できるレベルが必要です。 授業外でも耳に入る「ことば」に敏感になって下さい。そして、日本語のルールの面白さを楽しんでほしいです。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	本演習のねらい、進め方、発表などについて説明する。 履修者は、前期で扱った文法項目について簡単に発表する。	予習：前期の課題のレジュメ作成
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	日本語文の構造	日本語の文法全体像について理解する。 プリントを使い練習問題などを行う。	予習：配布プリント「日本語文の構造」の問題を解いておく 復習：配布プリントを使って復習
4	格助詞	日本語の格助詞について理解する。 グループ演習：格助詞の働きの違い	予習：配布プリント「格助詞」の問題を解いておく 復習：配布プリントを使って復習
5	格助詞演習発表	グループ演習：格助詞の違いについて発表。	予習：発表準備 復習：それぞれの格助詞の機能について復習
6	学外学修	ハウステンボスの表示について考える。	予習：ハウステンボスの中の配置や様子について調べておく
7	学外学修発表	ハウステンボスの表示を「やさしい日本語」にしたものをグループごとに発表する。	予習：発表準備 復習：「やさしい日本語」に書き換える練習
8	自動詞と他動詞	自動詞と他動詞について理解する。 グループ演習：自動詞・他動詞の教材	予習：配布プリント「自動詞と他動詞」の問題を解いておく 復習：配布プリントを使って復習
9	自動詞と他動詞教材発表	グループ演習：自動詞・他動詞の教材発表 ヴォイスについて理解する。	予習：発表準備 復習：配布プリントを使って「自動詞・他動詞」の復習
10	ヴォイス	ヴォイスについて理解する。問題をとく。	予習：配布プリント「ヴォイス」の問題を解いておく 復習：配布プリントを使って復習
11	ムード	ムードについて理解する。問題をとく。	予習：配布プリント「ムード」の問題を解いておく 復習：配布プリントを使って復習
12	テンス	テンスについて理解する。問題をとく。	予習：配布プリント「テンス」の問題を解いておく 復習：配布プリントを使って復習
13	佐世保の魅力を知ろう	佐世保の良いところについてディスカッション。	予習：佐世保情報を調べておく 復習課題：PR資料づくり
14	佐世保をPRしよう	グループ演習：佐世保の魅力を伝えるため「やさしい日本語」を使ってPR資料をつくる。	復習課題：PR資料づくり
15	発表	グループ演習：佐世保のPR資料発表	予習：発表準備 復習：これまで学修した内容について復習

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IB (CF 202)			担当教員	川上 直彦		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<p>人類の文明発祥の地で興った「古代オリエントと東地中海世界の文明（古代メソポタミア文明、古代エジプト文明、エーゲ文明、クレタ文明等）を考古学、そして古代史の演習（ディスカッション、グループワーク、発表）の観点から理解し、これらの文明が人類共有のかけがえのない文明であることが理解できる。また、なぜこれらの地が、人類共通の文明発祥の地であるのかを習得し、研究・観光資源である人類共通のかけがえのない文化遺産の宝庫であることが理解できる。観光として、古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡そして博物館・美術館を訪れた時、考古学および歴史学的視点から遺跡と展示遺物を理解するに必要な専門知識を修得することができる。</p>							①⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	古代オリエントと東地中海世界の文明の遺跡・遺物、そして関連する博物館・美術館に関心を抱き、専門的課題に取り組むことにより、専門力を習得することができる。				レポート・発表	15%	
情報収集、分析力	事前学習と演習を通じて実践する、文献読解から情報収集を行い、レポートを作成することにより、読解力、分析力、そしてレポートを書く能力を習得することができる。				レポート・発表	25%	
コミュニケーション力	レポート発表を課し、発表に対する質疑応答と討議を実践することにより、コミュニケーション能力を上達させることができる。				発表	30%	
協働・課題解決力	古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡と世界中の博物館に収蔵されている展示遺物の考古学および歴史学的意味についての発表と、発表に対する質疑応答を通じて他学生と協議することにより協働・課題解決力を習得することができる。				授業参加度	30%	
多様性理解力						%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
各自、3本のレポート作成とそれらの発表を実践し、発表内容および発表のスキルを総合的に評価し、全体評価の70%とする。フィードバックは、個別に口頭で行う。							
授業の概要							
本演習では、人類共通の文明発祥の地に興った古代オリエントと東地中海世界の核をなすメソポタミア文明を中心に、古代エジプト文明、エーゲ文明、そしてクレタ文明等にもふれ、文献購読と配布資料を用いた演習を実施する。演習内容が十分に理解できるように、補足的に講義を実践し、また、DVDなどの視聴覚教材も補助教材として用い演習を実践する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：適宜プリントを配布する。 参考書：適宜プリントを配布する。 指定図書：世界の歴史1：人類の起源と古代オリエント（大貫良夫・前川和也・渡辺和子・屋形複貞、中央公論社）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
古代史・考古学全般に関心を持ち、遺跡や博物館・美術館を観光する機会を持ってほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	はじめに 東地中海文明（1）	演習全体の導入と説明 エーゲ海文明 1	復習：今回の復習 予習：エーゲ海文明について調べる
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	東地中海文明（2）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
4	東地中海文明（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：イシン・ラルサ王朝、バビロン第一王朝と古アッシリアについて調べる
5	最古の帝国の出現（1） 古代オリエント文明	交易と交戦	復習：今回の復習 予習：エラム王国、カッシート王朝、中アッシリア、ミタンニについて調べ、理解する
6	最古の帝国の出現（2） 古代オリエント文明	都市国家の連合と対立	復習：今回の復習 予習：ヒッタイト、ラムセス2世、新王国時代について調べる
7	最古の帝国の出現（3） 古代オリエント文明	古代オリエント世界の国際化と多極化	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
8	最古の帝国の出現（4） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
9	最古の帝国の出現（5） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：今回の復習 予習：新アッシリア帝国と旧約聖書について調べる
10	最古の帝国の出現（5） 古代オリエント文明	アッシリアの台頭とそのライバル	復習：今回の復習 予習：ティグラト・ピレセル3世、サルゴン2世、エサルハドン、アッシュールパニバルについて調べる
11	最古の帝国の出現（6） 古代オリエント文明	新アッシリア帝国の再興	復習：今回の復習 予習：新バビロニア帝国、ペルシャ帝国、アレクサンドロス大王について調べる
12	最古の帝国の出現（7） 古代オリエント文明	最後の帝国について	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
13	最古の帝国の出現（8） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
14	最古の帝国の出現（9） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：これまでのレポートを読む
15	まとめ	総合復習	復習：今回の復習

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IB (CF202)			担当教員	神野 周太郎		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
専門演習 IA に引き続き、本演習では、「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関連する問いを各自で設定し、それについての答えをみつけるための能力を培うことを目的とする。それは個人的な問題を他者と共有し、多角的な視点から共通理解となる答え（ものごとの本質）をみつけるための「哲学的思考」を展開する能力を培うことでもある。本演習では、教員や学生が共に対話（議論）を展開することを重視する。							⑤ ⑥ ⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	「体育」「スポーツ」「身体」に関するニュース、コラム、評論、書籍を集め、それらを通覧する中で個人的な問いを設定できる。				・資料収集 ・問いの設定内容	30% 10%	
コミュニケーション力	「体育」「スポーツ」「身体」についての個人的な問題意識を他者と共有し、共通理解となる答えをみつけるための議論ができる。				・他者の主張を踏まえた議論の展開	60%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>議論を展開する上で、各自設定したテーマに関連する適切な先行研究や資料を選択し、それらを概観した上でレジюме（要約、自分なりの考察）を作成しているか、その内容が論理的に展開されているか（問題、テーマ、議論、答え）を評価する。</li> <li>運動やスポーツを模擬指導する上で、各自設定した種目、対象について適切な課題や教材を設定した上で指導案（指導計画）が作成されているかを評価する。</li> <li>個別テーマ研究や実技指導の後の議論では、問いを共有しそれについての意見を建設的に述べられているか、評価すべき点や改善すべき点は何かにといった自身の意見を述べられているかを評価する。</li> <li>フィードバックについては、学生と個別に口頭でやりとりをする中で、理解度、達成度、課題を把握させる。</li> </ul>							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> <li>体育やスポーツの諸科学の中でも、人文科学的な研究方法に基づいて、問題を共有するためのレジюме（発表資料）や現場で必要となる指導案を作成し、適宜運動実践も交えつつ、発表内容や実践の省察を議論形式で実施する。議論については、その方法自体を学んだ上で実際に意見を交わし合う。実践については、教員希望者の場合模擬授業を、スポーツ指導者の場合はスポーツ指導を展開し、それについて省察する。</li> <li>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。</li> </ul>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『中学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房 『高等学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房</p> <p>参考書：各県教員採用試験過去問題集（保健体育）＊指定しない 教員採用試験参考書（保健体育）＊指定しない 教員採用試験ステップアップ問題集（保健体育）七賢出版 ＊該当年度の問題集</p> <p>指定図書：雑誌『月刊 体育科教育』大修館書店、雑誌『現代スポーツ評論』創文企画 『はじめての哲学的思考』 苫野一徳 2017 筑摩書房</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること			
「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関わるニュース、コラム、評論、雑誌、書籍に触れる機会を増やすこと。ネット記事であればブックマークをしたり、気になる紙媒体の資料があればコピーしてファイリングしたりして情報を蓄積すること。それが後に卒業研究論文の執筆、保健体育授業やスポーツ指導の実践力、教員採用試験の合格や望ましい就職につながる。			
回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション 及び個別面談	・本演習の概要説明 ・個別に学業等に関する面談を実施	予習：前期の省察 復習：個別面談内容を基に前期の取り組みを立案
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
2	哲学的対話という方法 I B	超ディベート（共通理解型志向型対話）の実践 I B （テーマ：体育やスポーツに関する事柄）	予習：『はじめての哲学的思考』を通読 復習：図書「はじめに」と「おわりに」を再読
3	レジュメの作成 I B	主張の抽出と思考の言語化 I B （レジュメの作成方法の見直し）	予習：論文を検索し通読 復習：キーワード再設定のち再検索
4	指導案の作成 I B	授業/指導計画と種目の教材化 I B （実技指導の対象を選定）	予習：学習指導要領を通読 復習：種目別に段階的な実技指導法を調べる
5	テーマ研究①	担当者が設定したテーマに基づいて発表 （テーマ：現代におけるスポーツの位置づけ）	予習：レジュメの作成 復習：発表時に受けた指摘をもとにレジュメ添削
6	テーマ研究②	担当者が設定したテーマに基づいて発表 （テーマ：スポーツを漫画、アニメ、映画から考える）	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
7	実技指導研究①	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 （種目：ボールゲーム）	予習：種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
8	テーマ研究③	設定したテーマに基づいて担当者が発表 （テーマ：スポーツ指導に関する問題）	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
9	テーマ研究④	設定したテーマに基づいて担当者が発表 （テーマ：体育の授業の実状）	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
10	実技指導研究②	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 （種目：陸上競技関連）	予習：種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
11	授業内小テスト	教員採用試験過去問、スポーツ・運動指導関連問題	予習：指定された範囲を学習 復習：間違い箇所の復習
12	テーマ研究⑤	設定したテーマに基づいて担当者が発表 （テーマ：スポーツに関する仕事、都市型スポーツ）	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
13	テーマ研究⑥	設定したテーマに基づいて担当者が発表 （テーマ：オリンピック・パラリンピックの功罪）	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
14	実技指導研究③	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 （テーマ：都市型スポーツの教材化）	予習：種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し

15	まとめ	後期授業のまとめと長期休暇の課題	・各自設定した研究テーマ や作成した指導案の省察
----	-----	------------------	-----------------------------

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B(CF202)			担当教員	高橋 憲司		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>専門演習 IA・IBでは、「コミュニケーション力の向上」「メディアリテラシーの向上」「スポーツ体験(e スポーツ含む)」を3大目標として、演習を展開します。IBでは、各種ワークを通じて個人およびチームにて課題解決に取り組みます(コミュニケーション力)。また、PCもしくはスマートフォンを用いた文書作成・表計算技能・映像編集を習得します(メディアリテラシー)。様々なスポーツを体験することで、各スポーツの特徴を理解します。</p>							① ② ⑤ ⑦ ⑩ ⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	・選択したスポーツの特徴を説明することができる					・課題レポート	10%
情報収集、分析力	・PCもしくはスマートフォンを学習・研究・データ収集に効果的に活用できる					・作業課題	20%
コミュニケーション力	・ゼミ生同士で円滑にコミュニケーションがとれる					・ワークへの取り組み態度とワークによる成果	30%
協働・課題解決力	・各種ワーク・活動に対して、共同して全力で取り組むことができる					・ワークへの取り組み態度とワークによる成果	30%
多様性理解力	・自分自身の長を理解した上で、他の学生の個性や多様性を尊重し、周囲に不快感を与えない配慮ができる					・授業態度	10%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>●ワークへの取り組みと成果(60%)：第3～14回の全12回の結果で評価(各回5点満点：態度評価0～3点、成果0～2点)、各授業の終盤にフィードバック。●作業課題(20%)：3～12回のメディアリテラシーの課題に対して3段階で評価(0～2点)、各授業の終盤でフィードバック。●課題レポート(10%)：「スポーツの活用」について11段階で評価(0～10点)、第15回時にフィードバック●授業態度(10%)：10点満点から減点法とし、不快と感じさせるような行為に対して、その都度注意して、減点理由を説明する。</p>							
授業の概要							
<p>本授業では、各種ワークを通じて、コミュニケーションの向上のための活動を実施する。また、PC・スマートフォンを使用しメディアリテラシーを高め、日常生活・学生生活・研究活動が円滑に行えるようにする。さらに、スポーツに関する専門的知識を高め、研究を行うための基礎力を習得します。尚、各スポーツ体験を行う際、活動に関わる実費負担が生じることがあります(見学も可)。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、60分とする。</p>							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない							
参考書：「健康・スポーツ科学のためのExcelによる統計解析入門」佐藤進他(杏林書院)ISBN-13:978-4764411081							
指定図書：「プログラマー、業界のしくみからお金の話までeスポーツのすべてがわかる本」黒川文雄(日本実業出版)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p><b>授業外における学習</b>：様々なスポーツについて、興味関心をもって観察し、各スポーツの特性や可能性を考える習慣ができるように、授業外でスポーツ現場やテレビ等の様々なメディアを活用して情報収集を行ってほしい。</p> <p><b>学生に期待すること</b>：「挨拶・礼儀」「時間厳守」「整理整頓」の基礎的社会的マナーを守り、主体的・積極的にゼミの活動に取り組んでほしい。授業を欠席する場合は、事前に連絡をするようにしてほしい。スポーツによる外傷・障害のあ</p>							

る場合は、初期評価・相談が可能なので、気軽に相談をしてほしい。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習授業の進め方の確認</li> <li>・夏季休暇中の活動報告と今季の目標設定</li> </ul>	予習：シラバスを熟読し理解する 復習：受講規則の確認
2	外傷予防とテーピング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（情報交換）</li> <li>・メディアリテラシー（アプリ活用）</li> <li>・外傷予防に必要な対策・テーピング</li> </ul>	予習：テーピングについて調査 復習：他者にテーピングを巻く
3	アイシングと応急処置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（苦手なスポーツ）</li> <li>・メディアリテラシー（文字入力）</li> <li>・アイシングと応急処置</li> </ul>	予習：RICEについて調査 復習：大学やスポーツ施設の応急セットやAEDの設置個所を把握する
4	新体力テスト①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（得意なスポーツ）</li> <li>・メディアリテラシー（文字入力）</li> <li>・新体力テストの実施と記録</li> </ul>	予習：新体力テスト実施要項の確認 復習：テスト結果をもとに体力向上のための生活習慣を整える
5	新体力テスト②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（簡易ゲーム）</li> <li>・メディアリテラシー（タイピング練習）</li> <li>・新体力テストの実施と記録（前期の記録と比較）</li> </ul>	予習：測定手順の確認と身体づくり 復習：テスト結果をもとに体力向上のための生活習慣を整える
6	ターゲット型スポーツ体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（準備体操）</li> <li>・メディアリテラシー（映像加工①）</li> <li>・ターゲット型スポーツ体験</li> </ul>	予習：ターゲット型スポーツの調査 復習：各種ターゲット型スポーツに積極的に取り組む
7	e スポーツ体験①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（ディスカッション）</li> <li>・メディアリテラシー（映像加工②）</li> <li>・e スポーツ体験（選択制）</li> </ul>	予習：e スポーツの勝利方法の調査 復習：勝ちパターンの立案
8	e スポーツ体験②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（e スポーツ）</li> <li>・メディアリテラシー（映像加工③）</li> <li>・e スポーツ体験（HADO）</li> </ul>	予習：HADOの特徴を調査 復習：勝ちパターンの立案
9	車いすスポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（ディスカッション）</li> <li>・メディアリテラシー（動画撮影①）</li> <li>・車いすスポーツ体験</li> </ul>	予習：車いすスポーツを調査 復習：車いすスポーツの映像を視聴
10	障がい者スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（e スポーツ）</li> <li>・メディアリテラシー（動画撮影②）</li> <li>・e スポーツ体験（海外のe スポーツ）</li> </ul>	予習：障がい者スポーツの調査 復習：障がい者スポーツの映像を視聴
11	専門競技スポーツ体験①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（接客）</li> <li>・メディアリテラシー（動画編集①）</li> <li>・専門競技スポーツ体験（選択制）</li> </ul>	予習：選択した専門競技スポーツについての調査 復習：選択した専門競技スポーツの映像を視聴
12	専門競技スポーツ体験②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（共有ゲーム）</li> <li>・メディアリテラシー（A4レポート作成）</li> <li>・専門競技スポーツ体験（選択制）</li> </ul>	予習：選択した専門競技スポーツについての調査 復習：選択した専門競技スポーツの映像を視聴
13	専門競技スポーツ体験③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（ミーティング）</li> <li>・専門競技スポーツ体験（選択制）</li> </ul>	予習：選択した専門競技スポーツについての調査 復習：選択した専門競技スポーツの映像を視聴
14	専門競技スポーツ体験④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（交流）</li> <li>・専門競技スポーツ体験（選択制）</li> <li>※課題レポート（提出期限：15回授業の前日）</li> </ul>	予習：選択した専門スポーツについての調査 復習：選択した専門スポーツの映像を視聴
15	総合復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（交流）</li> <li>・課題レポートのフィードバック</li> <li>・総合復習</li> </ul>	予習：これまでの活動を振り返る 復習：積極的に各種スポーツに挑戦する

授業科目(ナンバリング)	<b>専門演習 I B (CF202)</b>			担当教員	陳 慶光		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、ますます発展する市民マラソン大会を通じて、スポーツツーリズムによる地域活性化を広い視点から学ぶ。今後のスポーツイベント運営・企画を担う人材に成長できるよう、市民マラソン大会を対象にしたフィールド調査とレポート執筆を中心に進める。そうすることで地域の魅力を再発見し、引き出し、ひいては地域活性化に結実させる。							②⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	スポーツツーリズムの基礎知識を理解することができる。				演習への参加度	10%	
情報収集、分析力	市民マラソン大会の動向について調べ、各大会の特色や魅力について分析することができる。				研究レポートとプレゼンテーション	30%	
コミュニケーション力	課題に積極的に取り組み、調査結果をレポートとしてまとめることができる。プレゼン資料を作成し、わかりやすく発表することができる。				研究レポートとプレゼンテーション	50%	
協働・課題解決力	グループ調査・研究に取り組むことができる。				演習への参加度	10%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究レポートとプレゼンテーション：スポーツツーリズムとフィールド調査に関する様々な概念の趣旨を身につけているかについて評価する。</li> <li>・演習への参加度：議論やグループワークへの参加割合を評価する。 フィールド調査とレポート執筆の各段階におけるフィードバックや助言は適宜個人指導を通じて行う。</li> </ul>							
授業の概要							
本演習では、調査研究とレポート執筆を通して、コミュニケーション力と情報収集、分析力および課題解決力を身に付ける。スポーツツーリズムの基礎知識を理解した上で、スポーツイベントに関する施策における課題、知識を徹底的に学びます。前期に行った予備調査の結果をもとに、後期の本調査を実施する。なお、各調査地域への旅費は各自で実費を負担する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない。</p> <p>参考書：適宜紹介する。</p> <p>指定図書：『スポーツツーリズム・ハンドブック』、日本スポーツツーリズム推進機構編、学芸出版社</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>膨大な知識と経験を要する、「スポーツツーリズム」と「フィールド調査」について総合的に学びます。そのため、毎回の課題が数多く設定されます。継続的かつ主体的な学習態度が求められます。</p> <p>本演習を選択する学生は、スポーツツーリズムを履修することが望ましい。さらに、専門演習 I から III にかけて、マラソン大会のランナー、ボランティア、観客として積極的に参加を推奨します。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	専門演習 I A の結果を踏まえ、各自の方向性と進め方を確認する。	予習：シラバスを読む 復習：目標設定
2	フィールド調査の準備 (1)	フィールド調査の対象になる長崎平和マラソン (11月 29 日開催、暫定) について、相互に討論して、各自調査したいテーマを決定する。	予習：調査対象について調べておく 復習：目標設定と修正
3	フィールド調査の準備 (2)	問題提起、調査計画を立てる。	予習：文献を読む 復習：目標設定と修正
4	フィールド調査の準備 (3)	フィールド調査におけるデータ収集方法 (アンケート) について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：調査票の作成
5	フィールド調査の準備 (4)	フィールド調査におけるデータ収集方法 (参与観察) について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：調査票の作成
6	フィールド調査の準備 (5)	フィールド調査におけるデータ収集方法 (インタビュー) について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：調査票の作成
7	フィールド調査の準備 (6)	フィールド調査におけるデータ分析方法 (量的方法) について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：調査票の作成
8	フィールド調査の準備 (7)	フィールド調査におけるデータ分析方法 (質的方法) について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：調査票の作成
9	フィールド調査の準備 (8)	校内でアンケート調査、参与観察、インタビュー調査を予行練習する。11月 29 日にフィールド調査を行う (暫定)。	予習：調査計画を立てる 復習：調査票の精査
10	研究レポートの作成 (1)	フィールド調査を振り返り、気付いた点や感想を話し合い、レポート作成の方向性を検討する。	調査結果を初歩的にまとめる
11	研究レポートの作成 (2)	研究レポートを作成、修正する。	レポート執筆
12	研究レポートの作成 (3)	研究レポートを作成、修正する。	レポート執筆
13	研究レポートの作成 (4)	研究レポートを作成、修正する。	レポート執筆
14	研究結果の発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
15	まとめと展望	各自が本学期的の調査を振り返り、来年度に向けて検討する。	本学期的の成果の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IB(CF202)			担当教員	東出 朋		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この授業は、自分の生活の一部として日本語学習を位置づけ、主体的に学習するその学習方法を学ぶことを目的とする。授業は生活の一部であり、日本語は生活そのものである。日本語学習と日本語を用いた生活について、仲間とともに考え行動する。							④⑥⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	自分の日本語学習の課題（話聞書読）を探し、それを自律的に解決する努力をすることができる。				目標シート（自己評価及び他者評価）	20%	
情報収集、分析力	必要な資料を様々な方法で探すことができる。				同上	20%	
コミュニケーション力	分からないことを尋ね、また知っていることを分かりやすく教えてあげることができる。				同上	40%	
協働・課題解決力							
多様性理解力	日本での生活にある異文化摩擦について、その原因と解決策を考察することができる。				グループ発表 リフレクションシート	20%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
日本語学習に関する目標シートを作成し、月末及び学期末の目標達成度の自己評価及び他者評価、教師評価を行う（80%）。 また、「多文化共生とわたし」というテーマで学期末にグループ発表をする。その活動の自己評価及び他者評価、教師評価を行う（20%）。							
授業の概要							
毎授業は2部からなる。授業前半は個別の日本語学習とグループ学習、後半は「多文化共生とわたし」についてグループ活動を行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特になし 参考書：特になし 指定図書：ブレイディみかこ（2019）『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』新潮社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
学習を生活の一部と位置付けることを期待する。また、当然のことではあるが、学習は日本語だけではない。個々人の人生・生活の中の様々な学習・学びについて考えてほしい。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	本演習の進め方、評価方法の説明 目標シートの作成 グループ決め	事前にシラバスをよく読み、 学習項目を確認する。
2	活動1	日本語学習 「多文化共生とわたし」グループ活動1	予習) 日本語学習の教材を調べる 復習) 活動1の振り返り、計画に沿った学習
3	活動2	日本語学習 「多文化共生とわたし」グループ活動2	予習) 日本語での生活の悩みを書きだす 復習) 活動2の振り返り、計画に沿った学習
4	活動3	日本語学習・目標シート記入1 「多文化共生とわたし」グループ活動3	予習) 目標シート記入 各グループに必要な準備、 復習) 活動3の振り返り、計画に沿った学習
5	活動4	日本語学習 「多文化共生とわたし」グループ活動4	予習) 各グループに必要な準備 復習) 活動4の振り返り、計画に沿った学習
6	活動5	日本語学習 「多文化共生とわたし」グループ活動5	予習) 各グループに必要な準備 復習) 活動5の振り返り、計画に沿った学習
7	活動6	日本語学習・目標シート記入2 「多文化共生とわたし」グループ活動6	予習) 目標シート記入 各グループに必要な準備 復習) 活動6の振り返り、計画に沿った学習
8	活動7	日本語学習 「多文化共生とわたし」グループ活動7	予習) 各グループに必要な準備 復習) 活動7の振り返り、計画に沿った学習
9	活動8	日本語学習 「多文化共生とわたし」グループ活動8	予習) 各グループに必要な準備、 復習) 活動8の振り返り、計画に沿った学習
10	活動9	日本語学習 「多文化共生とわたし」グループ活動9	予習) 各グループに必要な準備 復習) 活動1の振り返り、計画に沿った学習
11	活動10	日本語学習・目標シート記入3 「多文化共生とわたし」グループ活動10	予習) 目標シート記入 各グループに必要な準備 復習) 活動10の振り返り、計画に沿った学習、発表準備
12	発表1	「多文化共生とわたし」グループ活動発表会 リフレクションカード記入・ディスカッション	予習) 発表準備 復習) 発表1の振り返り、計画に沿った学習
13	発表2	「多文化共生とわたし」グループ活動発表会 リフレクションカード記入・ディスカッション	予習) 発表準備 復習) 発表2の振り返り、計画に沿った学習
14	発表3	「多文化共生とわたし」グループ活動発表会 リフレクションカード記入・ディスカッション	予習) 発表準備 復習) 発表3の振り返り、計画に沿った学習
15	発表4	「多文化共生とわたし」グループ活動発表会 リフレクションカード記入・ディスカッション 目標シート記入4・後期のまとめ	予習) 発表準備 目標シート記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	Brendan Van Deusen		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
This course builds on the skills gained in the previous semester. In addition to further improving students' ability to discuss and present ideas about current global affairs, this course aims to teach students how to communicate and collaborate with students in other countries using online exchange.							② ④ ⑤
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力						%	
情報収集、 分析力	Students will be able to read about and discuss global affairs in a group				Assignments Presentation	20% 10%	
コミュニケーション力	Students will be able to present ideas about global affairs as a group in a way that engages their audience Students can communicate online with students from other countries.				In-class engagement Presentation Report	30% 20% 20%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
In-class engagement (Group discussions, supporting other students with helpful ideas): 30% Assignments (weekly assignments, preparation work for projects): 20% Projects (final presentation, final report): 50% * All feedback is provided via rubrics and comments in the online gradebook ( <a href="https://niu.9learn.net/">https://niu.9learn.net/</a> and Google Classroom)							
授業の概要							
In the first few classes, students discuss current events topics that are of interest to them. From this, they move on to building an academic presentation about one of these topics. Working in stages, students build their knowledge and ability to communicate their ideas and engage with others in a group setting. The project culminates in a final presentation with extended Q&A / class discussion.この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：None 参考書：English newspapers in the library 指定図書：English dictionary							
授業外における学修及び学生に期待すること							
1. This course is conducted in English. 2. Students are responsible for the cost of project-related materials and off-campus field work. 3. Student expectations: Students will attend <u>all lessons</u> (unless sick or on a school trip). Students must contact the teacher <u>before</u> missing a class. If a student misses a class, he or she will catch-up on the lesson and homework. Students will complete projects and homework on time. Students will ask for help if necessary. This syllabus is subject to change.							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	Introduction	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Introduce the course and review the syllabus</li> <li>• Framework for selecting and discussing current events</li> </ul>	Read syllabus in advance
2	Personal goal setting	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Conference with seminar teacher to reflect on last semester's goals and set new ones</li> </ul>	Prepare goals
3	Online exchange introduction	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Set up online exchange</li> <li>• Online etiquette and best practices</li> </ul>	Decide current even topic
4	Online audio and video skills	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Creating and sharing videos for online exchange</li> <li>• Creating and sharing audio for online exchange</li> </ul>	Begin online interaction
5	Group 1 presentation	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Group 1 presents global affairs topic, followed by class discussion</li> </ul>	Prepare for presentation and discussion
6	Online exchange status report	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Report status of online exchange activity</li> <li>• Fixing communication breakdowns</li> </ul>	Summarize activity in notebook
7	Group 2 presentation	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Group 2 presents global affairs topic, followed by class discussion</li> </ul>	Prepare for presentation and discussion
8	Online exchange status report	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Report status of online exchange activity</li> <li>• Begin formulating final project topic</li> </ul>	Summarize activity in notebook
9	Group 3 presentation	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Group 3 presents global affairs topic, followed by class discussion</li> </ul>	Prepare for presentation and discussion
10	Online exchange status report	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Report status of online exchange activity</li> <li>• Finalize final project topic</li> </ul>	Summarize activity in notebook
11	Group 4 presentation	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Group 4 presents global affairs topic, followed by class discussion</li> </ul>	Prepare for presentation and discussion
12	Online exchange status report	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Report status of online exchange activity</li> <li>• Provide outline of final project plan</li> </ul>	Summarize activity in notebook
13	Final presentation preparation	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Workshop and status update of final presentation</li> </ul>	Bring materials related to final presentation
14	Final Presentations	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Students present and participate in Q&amp;A</li> </ul>	Prepare for presentation and Q&A
15	Final Presentations Wrap-up	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Students present and participate in Q&amp;A</li> <li>• Final class discussion</li> </ul>	Prepare for presentation and Q&A Submit final report

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	元嶋 菜美香		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
スポーツ心理学に関するテキストの輪読を通して、運動学習・健康心理の基礎知識を理解することを目的とする。また、これらの基礎知識を専門的に実施している競技に応用して考え、ディスカッションを通じて知識を深めることができるようにする。さらに、スポーツ心理学における実験・調査について理解を深め、レポート作成を通してデータ収集、分析、心理的考察の方法を実践的に学ぶ。							①⑤⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	スポーツ場面における心理的要因を中心に、客観的な根拠を基に自分の考えを理論的に展開することができる。				プレゼン資料 調査・実験レポート	20% 20%	
コミュニケーション力	スポーツ指導者および現役のアスリートとして、運動・スポーツにおける心理的課題とその対処法についての基本知識を説明することができる。 スポーツ場面における心理的要因について自身の意見をまとめ、ディスカッションに積極的に参加し、発表をすることができる。				プレゼンテーション、授業の参加度	60%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業への参加度：授業内でのディスカッションの参加度およびゼミ内での役割の遂行状況について評価する。</p> <p>プレゼンテーション：担当箇所に記載されている知識の把握のみならず、周辺領域に関する知識を把握した上で、理論的に説明できているかを評価する。</p> <p>プレゼンテーション資料：プレゼンテーションを行うにあたり、担当箇所に記載されている基礎知識を理解し要約できているかを評価する。</p> <p>調査・実験レポート：ゼミ内で行う調査・実験について専門用語を用いてまとめることができているかを評価する。</p> <p>プレゼンテーションおよびプレゼンテーション資料は、随時授業内でフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>前半は、スポーツ心理学に関するテキストの輪読を通して、運動学習および健康心理に関して運動制御や情報処理などの運動の制御機構、フィードバックや練習法などの運動の学習と指導、スポーツにおける動機づけ、スポーツの社会心理、運動による健康の増進を中心的に学ぶ。各章の担当者を決定したのち、担当者は事前にテキストを精読・要約し、プレゼンテーション資料を作成する。作成した資料をもとにプレゼンテーションを行い、ゼミ内でディスカッションを行う。</p> <p>後半は、運動学習に関する実験・調査を計画し、実験計画書の作成、データ収集、分析、レポートの作成を通してスポーツ心理学の研究方法を学ぶ。</p> <p>課題の提出およびレポートの共有は、ポートフォリオを通じて行う。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：使用しない</p> <p>参考書：日本スポーツ心理学会『スポーツ心理学事典』大修館書店、2008</p> <p>杉原隆『運動指導の心理学』大修館書店、2003</p> <p>指定図書：日本スポーツ心理学会『スポーツ心理学事典』大修館書店、2008</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること

スポーツ心理学に興味を持ち、普段から自分の専門種目や興味関心のある競技種目、日常生活における心理的要因について知識を深めること。また、時間厳守や報告・連絡・相談など、大学生としてふさわしい行動をするように努めること。グループワークが中心となるので、他者の心を思いやり協調性をもった行動をとること。

※本演習を選択するものは、次のコースを履修することが望ましい：スポーツツーリズムコース

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、ゼミの進め方、輪読担当箇所の決定	シラバス及び参考書の確認
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	スポーツ心理学の概要	スポーツ心理学の領域、意義、心理的要素	予習：担当箇所の精読・要約・レジュメを作成する
4	輪読（１）	運動の制御機構「運動制御」「注意・集中」	予習：担当箇所の精読・要約・レジュメを作成する
5	輪読（２）	運動の学習と指導「練習方法」「フィードバック」	予習：担当箇所の精読・要約・レジュメを作成する
6	輪読（３）	スポーツにおける動機付け「動機付け」「自己効力感」「楽しさ」	予習：担当箇所の精読・要約・レジュメを作成する
7	輪読（４）	スポーツの社会心理「チームビルディング」「ライフスキル」	予習：担当箇所の精読・要約・レジュメを作成する
8	輪読（５）	運動による健康の増進「ストレス・不安」	予習：担当箇所の精読・要約・レジュメを作成する
9	キッズスポーツ調査	キッズスポーツに参加し、調査を行う。	予習：調査内容およびデータ入力方法を確認する
10	実験・調査計画（１）	運動学習に関する調査・実験を計画する	復習：運動学習に関する調査・実験の計画書の作成する
11	実験・調査計画（２）	運動学習に関する調査・実験を計画する	復習：運動学習に関する調査・実験の計画書の作成する
12	実験・調査	運動学習に関する調査・実験を実施する	復習：運動学習に関する調査・実験の結果を分析する
13	実験・調査の分析	運動学習に関する調査・実験結果の分析	復習：運動学習に関する調査・実験のレポートを作成する
14	実験・調査レポートの作成（１）	運動学習に関する調査・実験結果の考察、レポートの作成	復習：運動学習に関する調査・実験のレポートを作成する
15	実験・調査レポートの作成（２）	運動学習に関する調査・実験結果の考察、レポートの作成	復習：運動学習に関する調査・実験のレポートを作成する

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	森尾真之		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
着地型観光の成り立ちを理解すると同時に、地域の観光素材に対する認識を深め、地域課題解決に資する企画造成を研究します。地域観光素材の活用事例の学習においては、利益、関係者メリット、継続性についての分析ができることを目標とします。そのうえで既存の地域観光素材の再定義を行い、対象とする具体的な市場ニーズに合わせた新たな価値創造のための商品事業化の手法を学びます。							②⑥ ⑦⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>旅行業および観光業の成り立ちを理解する。</li> <li>現在直面している地域課題と市場の動向について理解する。</li> </ul>				企画書作成	20%	
情報収集、分析力	域内の旅行業・観光業に関する最新の情報に触れ、同様の事例情報の収集や、関連する地域のテーマと比較して検討することができる。				・授業への積極的な姿勢	30%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>論点が整理され、簡潔でわかりやすい表現ができる。</li> <li>課題に積極的に取り組み、メンバーの考えを尊重しつつ、自分の考えも説明することができる。</li> </ul>				・プレゼンテーション	40%	
協働・課題解決力	自分の役割を設定し、グループでの企画書作成作業に貢献する。				・授業への積極的な姿勢	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>「授業への積極的な姿勢」(40%)は、出席に加え討議をまとめるなどのリーダーシップやグループ内での率先垂範、メンバー支援などを総合的に判断します。</p> <p>「レポート」(20%)は内容の論理性・独自性を重視して判断します。</p> <p>「プレゼンテーション」(40%)は、様式や見やすさに加え、内容、発表態度などをもとに評価する。</p> <p>フィードバックは、レポート返却時及びポートフォリオを通して行います。</p>							
授業の概要							
主にテーマ別観光の種類、地域課題の背景との関連性、具体的なニューツーリズムの事例研究を通じて、着地型商品企画造成のための基礎知識の習得を図り、グループワークによる商品事業案の策定を行います。また事業案の実施を通し、地域の課題解決につなげる視点を身に着けます。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とします。							
教科書・参考書							
教科書/参考書：特に指定しない。必要なレジュメなどは授業時に配布。 指定図書：「幸せの仕事術」小山薫堂（NHK 出版）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習では現実的に実施可能な企画の手法の研究と実践を目標と、多くの学外機関の方との連携や協力が不可欠です。社会に役に立つ企画を実現させるという高い目標意識をもち、学内外での多くの活動、自主的な調査など授業以外での活動へ積極的に参加する学生の受講を期待します。また、プレゼンや企画書面の作成など表現スキルの向上に取り組むことも期待します。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	演習概略およびゼミの運営方法を確認する。	(予習) 事前にシラバス及び演習概略に目を通してくる。
2	個人目標の設定	個別面談による I A の振り返りおよび I B 目標設定	(予習) 自身の興味・関心をまとめてくる
3	着地型企画についての基礎知識習得	テーマ別観光による地方誘客事業について	(予習) 観光庁の HP などを見て事業の実態を確認
4	着地型企画についての基礎知識習得	日本における地域課題の背景理解	(予習) 自分の町の課題についてまとめてくる。
5	着地型企画についての基礎知識習得	地域観光素材の活用についての具体的な事例研究①	(復習) 事例のポイントを確認する。同様の事例を調べる。
6	着地型企画についての基礎知識習得	地域観光素材の活用についての具体的な事例研究②	(復習) 事例のポイントを確認する。同様の事例を調べる。
7	着地型企画についての基礎知識習得	地域観光素材の活用についての具体的な事例研究③	(復習) 事例のポイントを確認する。同様の事例を調べる。
8	グループ編成と企画案テーマ検討	これまでの予備学習について各自レポート作成・発表。グループ編成とテーマ設定	(予習) 自分の関心テーマを考えてくる。
9	テーマ案発表と立案企画フレームの精査	各チームのテーマを発表・全員で討議 企画テーマの内容や方向性を確認	(復習) 企画イメージをまとめる。
10	グループワーク	関連データの収集、調査内容の整理・検討およびスケジュールリング確認。	(予習) 調査対象の絞り込み。
11	グループワーク	フィールドワーク (事業パートナーとの打ち合わせ、想定利用施設の視察など)	(予習) 調査ポイントの詳細な確認
12	グループワーク	グループごとの進捗・経過の発表	(予習) 発表内容の論点確認
13	グループワーク	企画案の内容確認・精査	(予習) 自分の調査分野での論点を確認。
14	グループワーク	プレゼンテーション準備	(予習) 発表準備
15	まとめ	グループごとに企画案プレゼンテーション。 意見交換と演習全体のふりかえり。	(予習) グループでの発表の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	中島 金太郎		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
テーマ：地域文化資源の研究と展示 専門演習 I A で実施した地域文化資源に関するフィールドワークを再検討し、その成果をまとめて発表することができる。特に博物館の4大機能の中でも「研究」「展示」機能について学び、収集・記録した資料を研究して展示する活動を行うことで、学芸員に必要な実践的能力を養うことができる。							⑤⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	博物館や地域文化資源に関心を持つことができ、主に資料の研究・展示の方法を身に付けることができる。				展示製作への参加態度	20%	
情報収集、分析力	地域文化資源の特性を見出す洞察力や、問題点を把握する分析力及び思考力を取得することができる。				研究成果レポート	30%	
コミュニケーション力	展示作業およびグループワークの実施により、集団内でのコミュニケーション能力や発言力、企画立案力を養うことができる。				グループワークへの取り組み	40%	
協働・課題解決力							
多様性理解力	ゼミ生の研究発表を聞き、内容を理解することで多様性を理解すると共に、それを評価できる能力を養う。				研究発表	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習は展示製作を中心とし、それに至るまでのグループワーク、施工作業への取り組み・態度を総合的に判断する。</li> <li>・一連の調査・展示・学習で得られた研究成果をレポートにまとめ、その提出を必須とする。</li> </ul>							
授業の概要							
演習の方法は以下の手順で行う。 1. 博物館における研究および展示の目的・意義を確認 2. 展示のテーマ・目的・場所・日程・方法についてグループワーク 3. テーマに関する文献資料の収集と分析 4. 展示の実施（専門演習 I A で行ったフィールドワークの成果を基に、研究棟一階での展示を製作・施工する。） 5. 展示製作の中で興味を持った分野について研究を行い、研究レポートを執筆 6. 研究レポートを基に研究発表を行い、ゼミ内で相互評価を行う。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：使用しない 参考書：授業中に指示する 指定図書：デビッド・ディーン『美術館・博物館の展示 理論から実践まで』丸善出版							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この演習は、博物館学芸員としての基礎である展示能力および研究能力を習得するものであり、展示作業を通じて実務能力を習得するだけでなく、地域文化資源に興味を持つ好奇心や、自分自身で深めていく検討能力も養ってほしい。また、展示物の製作にはセンスが求められることもあるため、博物館に限らず様々な展示、ポスター、チラシなどを見てセンスを磨いてほしい。 ※本演習を選択する学生は、博物館学芸員課程の履修者であることが望ましい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	演習内容の確認	ガイダンス（演習内容の把握）を実施。	予習：シラバスを読む 復習：展示製作の方法を確認
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の学習成果を省察し、本学期的個人目標設定のための面談を実施。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標を設定し、用紙にまとめる
3	展示内容の選定	ゼミ内でグループワークを行い、展示のテーマ・内容・展示方法を選定する。 併せて、ポスター等広報についても検討する。	予習：展示テーマの考案 復習：広報物のデザイン等を考案
4	展示製作①	展示物（パネル、題箋類）を制作する。 あわせて、広報物も制作する。	予習：展示内容を確認 復習：展示内容を再検討
5	展示製作②	展示物（パネル、題箋類）を完成する。	予習：展示内容を再検討 復習：展示施工の方法について再確認
6	展示準備・施工	展示を公開するため、具体的な施工の準備を行う。 また、研究棟一階エレベーターホールに設置した展示ケースで実際に展示を施工する。	予習：展示準備 復習：展示作業の自己評価・自己分析
7	展示の反省	ゼミ内でグループワークを行い、展示の反省点・改善点を協議し、次年度以降の履修生に向けての提言をまとめる。	予習：展示内容の自己評価・自己分析 復習：自分自身の改善点を把握する
8	研究方法の解説	博物館および地域文化資源をテーマとした研究の方法について講義を行う。	予習：人文系分野の研究手法について調べる 復習：授業内容を見直し、自分に合った研究方法を考える
9	研究テーマの設定	フィールドワーク、展示作業などを通じて興味を持った分野を選択し、専門演習ⅠB内で研究を進めるテーマを決定する。	予習：フィールドワーク、展示作業の見直し 復習：研究テーマを決定
10	レポート作成の準備	研究テーマに基づいたレポートを作成するための説明と、文献調査を行う。	予習：専門演習ⅠAで配布された「レポート執筆要領」を再読 復習：作成方法の確認
11	レポート作成①	レポートを作成する。	予習：レポート作成準備 復習：レポート作成
12	レポート作成②	レポートを作成し、ポートフォリオを通じて提出する。 また、レポートを基に研究発表を行うので、発表準備を行う。	予習：レポート作成 復習：研究発表の練習、発表資料作成
13	研究発表①	一人15分程度の研究発表を行う。（質疑応答含む） 発表者以外は発表を評価し、発表者に質疑応答やコメントカードの形で伝達する。	【発表者】 予習：研究発表の練習 復習：レポートへの指摘事項の反映
14	研究発表②		【聞き手】 予習：発表評価方法の確認
15	後期レポートの受理	発表時の指摘事項を踏まえ、修正した研究成果レポートを提出し、後期のまとめを行う。	予習：レポート提出の準備 復習：個人目標の達成状況の確認